

平成21年度 文部科学省 大学教育推進プログラム採択

多文化社会における 英語による発信力育成

グローバル時代に活躍するための多角的学士力向上プログラム



平成22年度活動報告書

Nanzan University
Department of British and American Studies

目 次

1	はじめに	2
2	活動報告	4
2.1	国際ワークショップ	4
2.2	講演会	31
2.3	卒業論文そして卒業論文中間発表	53
3	Cross-cultural Interaction	57
4	The Student Committee	64
5	Chatterbox.....	66
6	語学試験（TOEIC® テスト）	69

1 はじめに

南山大学外国語学部英米学科では、平成 21 年度文部科学省大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム（GP：Good Practice 優れた取組）の支援により、平成 21 年度から 3 年間にわたって海外の大学との積極的な交流を通じて学生の英語による発信力を高めていく国際プロジェクト「多文化社会における英語による発信力育成—グローバル時代に活躍するための多元的学士力向上プログラム—」をスタートさせました。今年度は、プロジェクト 2 年目ということで本格的な活動を開始し、国内外から講師を招いての講演会、ワークショップの開催はもとより、学生自らが発信者となるものも含む多彩な形態のイベントを企画・運営しました。総合的な学士力の向上を目的とする本取組には、「異文化理解力の育成」、「企画・運営力の育成」、「情報発信力の育成」という三つの大きな柱がありますが、今年度はその中でも特に日本人が苦手とする「発信力の育成」に関わるイベントをいくつも開催することができました。これは非常に喜ばしいことであったと思います。

本取組では、国際ワークショップや国際シンポジウム、特別講演会を通じて「実体験に基づく異文化理解」を深め、自信を持って自らの意見を発信していける学生を育てることを目指していますが、その意味で、10 月にハワイ大学から招いた学生と共同でプロジェクトを行ったこと、そして 11 月には、ジョン・V・ルース駐日米国大使をお招きして直接意見交換をすることができたことは、まさに「実体験」を重視する本取組にとって特に素晴らしい機会であったということができるでしょう。ルース大使からは、“If you are an example of the future of Japan, Japan has absolutely nothing to worry about.”という最大級のお褒めの言葉をいただき、本取組が着実に成果をあげつつあることを実感することができました。とても有意義なプロジェクト 2 年目であったと言えます。

ハワイ大学との交流とルース駐日米国大使との意見交換会が今年度行った多くの事業の中でも特に刺激かつ有益なイベントであったことは、これらの行事についてのアンケート結果からもうかがい知ることができます。アンケートでは、これらの行事に参加することによって、学生たちが「実体験に基づく異文化理解」という概念を十分理解したこと、また自らの英語による発信力の向上に対する非常に強い動機付けを得たことが示唆されています。

本取組における情報発信力の育成のためのイベントは様々な形態をとっています。いくつか例を挙げると、第 3 回ワークショップ「Studying the United States in Japan: Is America an Exceptional Country?」のように、学生が発表した内容について講師がコメントを加える形式のもの、第 5 回ワークショップ「Ask Asuka!!」のように、ラジオトーク形式を持つもの、あるいは第 8 回ワークショップ「Meet the U.S. Ambassador」のように、タウンホールミーティング風のものなど、多岐にわたっています。これらはすべて話し言葉による情報発信と言えるものですが、本取組ではすべて英語で執筆する卒業論文を通して、書き言葉による情報発信にも力を入れています。

「GP Thesis Writing Presentation」と題された5回にわたる卒業論文の書き方指導の講演会では、卒業論文執筆のために必要な基礎的事項の解説から剽窃に関わる問題まで、学生が卒業論文を執筆する上で知っておかなくてはならない数々のポイントについて、練習問題も時折交えながら解説を行いました。なお、本年度は、卒業論文のアブストラクト（要旨）をPDF形式で本取組のWebページに公開しています。

本報告書には、上記のイベントに加えて、卒業論文中間発表会の模様や、異文化理解を目的とした講演会、そしてディキンソン大学（アメリカ合衆国ペンシルベニア州）から本学を訪れた学生との交流の模様も収録されています。GPの学生委員達は、これらの企画・運営に関わり、異文化理解力や英語による発信力の向上に加えて、企画・運営力の向上も目指しています。本取組では、単に人前で英語が上手に話せるというだけではなく、自ら情報発信の機会を生み出していける学生を育てることも大きな目標の一つとしているのです。

初年度の報告書にも書いた通り、単に英語力を向上させるだけではなく、専門的な学識に基づいて自らの意見を英語で発信できるようになることは、学部学生にとっては大きな挑戦であるに違いありません。しかしながら、「語学の南山」の伝統を守り、長年高い評価を受けて来た「アメリカ研究」の伝統を引き継ぐ本学科生は、この「多文化社会における英語による発信力育成」プロジェクトによってその潜在能力を最大限に引き出し、見事に次代を担う若者に成長してくれるものと確信しています。ルース駐日米国大使からいただいたお言葉を励みに、次年度の活動へとつなげて行きたいと思います。本報告書に対するご意見等賜ることができたら幸いです。

事業推進責任者

外国語学部英米学科長 鈴木 達也

英米学科 GP 事務局連絡先

Mail : eibei-gp@nanzan-u.ac.jp

電話 : 052-832-3278

FAX : 052-832-3279

2 活動報告

2.1 国際ワークショップ

第3回国際ワークショップ

Studying the United States in Japan: Is America an Exceptional Country?

Date and Time: 2010年06月08日(火) 13時30分～15時00分

Place: 南山大学名古屋キャンパス B棟 B44

Lecturer: Scott Bates

M.C.: Professor Takakazu Yamagishi

Summary:

今回の特別講演会は、レクチャー形式ではなく、英米学科生のプレゼンテーションに対して **Bates** 氏がレスポンスする形でディスカッションを行いました。冒頭では GP の学生メンバーによる GP についての説明も行い、大変有意義なワークショップとなりました。

Discussant: 略歴

バージニア州総務長官など、州連邦政府レベルの要職を歴任。海外では民主主義の推進やテロとの戦いを援助する米国政府の任務にも多く参加している。米下院国土安全保障委員会のシニア政策アドバイザーに任命され、米国をテロの脅威から守るための包括的レポート“Winning the War on Terror”の作成にも携わった。故郷のコネチカット州ストーントン町町会議員と警察署長も兼務。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスより国際関係修士号、バージニア大学ロースクールより法学博士号を取得。

Student Column Article: “Workshop: Round Table Discussion with Mr. Scott Bates”

On June 8th, we got a very special opportunity to talk about American issues face-to-face with Mr. Bates, who is a politician at the Center for National Policy. The group members were all really interested in American politics. We usually talk about American issues in class including the reform of the Health Care System, and the minority groups in the U.S. As a current American politician, Mr. Bates gave us his opinions toward some issues such as the situation of Jewish people and African American people in the U.S., the pursuit of the American dream, and the relationship between America and Asian countries. It was the first time we could discuss politics with a politician. We learnt how to use English to argue our ideas and also how to make good speeches on various topics.



Mr. Scott Bates's Workshop



GP Media Leader introducing our GP program at the beginning of the workshop



Student participating at the workshop asking Mr. Bates a question



GP student learning how to operate the video to tape this workshop

平成21年度採択 文部科学省 大学教育推進プログラム(GP)
英米学科 「多文化社会における英語による発信力育成」

Workshop (Language: English)

Studying the United States in Japan: Is America an Exceptional Country?

日時:平成22年6月8日(火) 13:30~15:00

会場:南山大学名古屋キャンパス B44教室



Mr. Scott Bates

<Discussant 略歴>

ヴァージニア州総務長官など、州連邦政府レベルの要職を歴任。海外では民主主義の推進やテロとの戦いを援助する米国政府の任務にも多く参加している。米下院国土安全保障委員会のシニア政策アドバイザーに任命され、米国をテロの脅威から守るための包括的レポート“Winning the War on Terror”の作成にも携わった。故郷のコネチカット州ストーニントン町町会議員と警察署長も兼務。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスより国際関係修士号、バージニア大学ロースクールより法学博士号を取得。

Moderator: 山岸敬和(英米学科准教授)

今回の特別講演会は、レクチャー形式ではなく、英米学科生のプレゼンテーションに対してBates氏がリスpondする形でディスカッションをする予定です。冒頭ではGPの学生メンバーによるGPについての説明も行います。一般学生による質疑応答の時間も十分あります。英米学科の多くの学生の参加をお待ちしています。

主催:南山大学外国語学部英米学科
問合せ先: 英米学科GP事務局
Tel: 052-832-3111(内線3503)
Email: eibei-gp@nanzan-u.ac.jp

第4回国際ワークショップ

Two-Day GP Film & Workshop with Linda Ohama

今回の上映会&ワークショップでは、英米 GP にとって初の試みとなる二日間にわたってのプログラムとして開催しました。

Day One:

Obaachan's Garden and the Japanese Canadian Experience

Date and Time: 2010 年 07 月 20 日 (火) 17 時 00 分～19 時 30 分

Place: 南山大学名古屋キャンパス B 棟 B31

Day1: 日系カナダ人三世である Linda Ohama 氏をお招きし、自らが監督を務め、数々の賞を受賞した作品『おばあちゃんのガーデン』の上映会及び、Q&A セッションを行った。『おばあちゃんのガーデン』は、監督である Linda Ohama 氏の祖母の過去について描かれたドキュメンタリー映画。戦時中、カナダに住んでいた日本人の移民の現状や、二世・三世のアイデンティティーについて考えさせられる作品となっており、観客は皆心を動かされ、とても充実した時間を過ごすことができました。

Student Column Article: “An Interview with Professor Ben Dorman”

I had an interview with Professor Ben Dorman, who participated in the GP Two-Day Workshop, and had a great time listening to him and discussing with him. This interview was about the GP workshop with Linda Ohama on 20th and 21st of July. His words and thoughts were beyond things about the event, which were very meaningful and inspiring to me. During the interview, Ben and I were discussing the film, “Obaachan's Garden”, directed by Linda Ohama. He commented that the movie was showing the difference in relationships existing between grandparents and grandchildren and parents and children. Grandparents and parents have different roles to take. Meanwhile, he also told me that he got an impression of a close relationship between Linda and her grandmother. According to him, she might have seen something close to herself inside Linda and this could be why she decided to tell Linda about her history; Linda's grandmother had a strong spirit to keep on moving forward but to remember her two children and Linda did not give up and continued to finish her significant work of making a film under pressure from her family, which is one of the things that moved him. Here is the most striking thing he noted; Linda's film does not judge history (for example, the relationship between Canada and Japan) but simply presented what happened in the past. She just tried to depict what her grandmother had gone through to know about her roots better. It might be a bit challenging and difficult for many of us to have an attitude like her because it is easy to judge people in the past without knowing them (or their situation). This is what I learned from Ben and it really opened my eyes. Yes, it is definitely true that we judge and criticize people for their past actions, being based on a sense of value and morals existing in our generation, which is not fair at all. This sort of action can lead to assumptions which could be wrong. Therefore, I would like to be careful when I look at history. All things considered, Linda's workshop and her film are useful not only for understanding of our identity but also for learning history in terms of why we learn our history, how we face our history and how we understand it. These points should mean more to us and to students at schools than memorizing every single name of each historical event. I personally believe that in every education field it is necessary to understand why we learn a certain thing. And Linda has told us one of the reasons why we look back our history. Finally, big thanks to Ben. You provided me with a great opportunity to gain many new insights and things which are worth for a good consideration. Thank you again.

参加学生のコメント

- ・初めて参加させて頂きましたが、映画を通して、同じ女性として大先輩の“オーバーチャン”の体験を少しでものぞくことができ、とてもよい機会でした。歴史に振り回されながらも力強く生きている“オーバーチャン”を尊敬しました（英米学科3年）
- ・実際の歴史に基づいた、そしてそこに関係する人々の思いがたくさん込められた素敵な映画でした。私自身、日本人として自分を保っている何かを問いたくなる内容、おばあちゃんの姿勢に心を打たれました。（英米学科4年生）



Linda Ohama talking about her film prior to the film showing



Some GP students who attended the event

Day Two:

The Connection of History, Memory, and Dreams from the Eyes of a Sansei Film Director

Date and Time: 2010 年 07 月 21 日 (水) 13 時 30 分～15 時 00 分

Place: 南山大学名古屋キャンパス B 棟 B43

Lecturer: Ms. Linda Ohama

M.C.: Suzanne Bonn (南山大学外国語学部英米学科講師)

Day2: 少人数でのワークショップを開催。参加者は事前に 2 つの写真 (自分の現在・過去)、家族についての文章を用意し、自分のルーツを見つめるワークショップを行いました。ドキュメンタリー映画、『礎 - ISHIZUE-』を見ながら、それぞれの持つアイデンティティーについて話しあいました。自分の過去が、今の自分にどのように影響しているのか、ルーツを考えることの大切さについて改めて考えさせてくれたワークショップとなりました。様々な年齢、バックグラウンドを持つ人々の参加により、異文化理解の面でも大変充実した時間となりました。

Student Column Article: Linda Ohama's Two Day Workshop: an Interview with Professor John Lenihan

I interviewed John, who participated in the workshop, and he seemed to be very impressed with Linda. He said that Linda Ohama was very honest and open. She gave very moving talks and showed very moving films. She is someone who works very hard at her craft and thinks very deeply about her work and all the people around her. She stresses that family is important because family is where you come from. It includes your own family and the family of your ethnic group. This is something we should all remember and feel good about even though there is much prejudice in the world. Through taking part in her workshop, we started to look into our life honestly, John said. He also said that he will keep in touch with her over the years to come.



Linda Ohama leading the workshop



A student talking about her connection to her family during the workshop



A GP student talking to Linda Ohama about her experiences growing up in Brazil as a Japanese Brazilian

Two-Day GP Film & Workshop with Linda Ohama

Day One: *Obaachan's Garden* and

the Japanese Canadian Experience

Day Two: The Connection of History, Memory, and Dreams

from the Eyes of a *Sansei* Film Director

Event Description

Eibei GP is proud to sponsor a two-day event – a showing of the award-winning documentary *Obaachan's Garden* followed by a Q&A discussion open to the public. We will have a special workshop open to Eibei students on the second day.

DAY ONE

Tuesday, July 20: 5:00-7:30pm

B31, Open to the public

After an introduction by Professor Suzanne Bonn, Linda Ohama will show her documentary *Obaachan's Garden* followed by a Q&A session. Audience members are encouraged to join in the discussion.

DAY TWO

Wednesday, July 21: 1:30-3:00pm

B43, Eibei students only (Registration Required)*

This workshop will focus on history, memory, and dreams and how these are connected in our lives, as seen through the eyes of a Nikkei Canadian filmmaker discovering her own strong connections to Japan.



Linda Ohama is a third generation Canadian of Japanese ancestry, award-winning documentary maker, writer and artist who, through filmmaking discovered her own strong connections to Japan and her roots.

* Please register for the **DAY TWO** workshop by July 13th, 5pm with Aya Kawakami in office L204.

Nanzan University Nagoya Campus



第5回国際ワークショップ

Part 1: Ask Asuka!!

Date and Time: 2010年09月27日(火) 15時00分～16時30分

Place: 南山大学名古屋キャンパス G棟 G30

Lecturer: 内藤明日香

M.C.s: モラエス アユミ (英米学科3年生)

内藤 里帆 (英米学科2年生)

Summary:

第5回国際ワークショップでは、スペシャルゲストとして **Radio-i DJ** 内藤明日香さんをお招きし、これまでとは全く異なるラジオトーク形式のイベントを開催しました。内藤明日香さんは、豊富な海外経験と三カ国語(仏・英・日)を操る能力を持ち、幅広いメディアで活躍中。健康的な食生活を推進するホリスティック・コンサルタントとしても注目されています

アメリカの有名なトークショー“**David Letterman Show**”のようなトークショーに、と学生が中心となり企画、英米学科のロバート・ヒューワー先生率いるバンドの演奏と共に、英米学科の学生2名がホスト役となり、明日香さんとの軽快なトークでショーを盛り上げました。

準備期間が夏休みと重なり短かったにもかかわらず、台本を考え、ポスターを作成、リハーサルを行い、舞台セットを整え・・・、と全ての工程に学生が携わり、多くの人々の協力のもと、とても充実したイベントを開催することができました。

Student Column Article: Meeting Asuka Naito at RADIO-i

On September 8th, Mari, Professor Hewer, Aya and myself visited the Radio-i broadcasting studio near Sakae station. It was an arranged meeting with Ms. Asuka Naito, who is a talented trilingual woman who works at RADIO-i as a DJ. We wanted to go and talk to her about the two workshops she will be doing on the 27th of September. Today, we talked about our proposal-what, we, the GP students, had in mind for the type of events we would organize and what we would like to hear from Ms. Asuka during the events. Mari from the events group, explained that we were thinking of doing the first workshop in a radio-show style. Ms. Naito really liked the idea, and gave us some advice on what we needed to do for preparation. Also, Mari told Ms. Naito why we wanted her to do a Yoga lesson. We told her we wanted to learn about the culture of Yoga as, despite it being very popular in western countries, the true Yoga is not well known in Japan. Ms. Naito understood what we were hoping to learn from the event, and she explained to us the brief history of yoga. I never knew yoga was created more than 5000 years ago!! Professor Yamagishi was also at the studio as a commentator on Ms. Asuka's show. And unexpectedly, he asked Mari and myself to give a short commentary on Japan-U.S. relations. We had a million butterflies in our stomachs when we entered the recording room, but it was a great experience. Ms. Naito seemed to have a very busy schedule, but she was kind enough to spend time with us after the show and discuss further details of the lecture with us. When we were talking about her healthy eating habits, she gave each of us a fruit called "Dates" which tastes like a raisin. Ms. Naito is a very active, open/broad minded and strong woman. She knows what kind of life she wants to lead, and what she needs to do to realize it. I admire her positive personality and look forward to our upcoming events! You can learn more about Ms. Naito by coming to our events: 1) Ask Asuka!! Live Radio Style Talk Show. September 27th, 15:15-16:30 in G30 (open to the public. 2) Beauty from Within. September 27th, 17:00-18:00 in D43 (limited to Nanzan students, dress appropriately for Yoga).

参加学生のコメント

- It was very good experience to know how women make their career plan & how women live their lives independent, being themselves to mention a few. Also, I got power from her because she's very powerful & confident. (英米学科 4 年)
- Asuka さんの国・性別・業界を越えた活躍を聞くことができ、とても刺激的でした。(メンターを探すことから始めたいと思います。) 音楽とのコラボも画期的で、楽しく学べる良い機会でした。バンドもとても良かったです！これからも、このような企画を期待しています。
- “働くこと”について学外の豊かな経験をお持ちの女性の意見を聞くことができとてもためになりました。Asuka さんが言われているように、Role Model を探すのは大変だと思いますが、今回のワークショップを通じてやってみよう、という気持ちになりました。(英米学科 3 年)



GP students setting up the front desk area before the Ask Asuka Workshop



Two representatives of the GP Student Committee acted as hosts and asked her many questions in a live radio style workshop



Two representatives of the GP Student Committee made commercial advertisements of our upcoming events during the events commercial break



Program for Promoting University Education Reforms
Supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Nanzan University, Faculty of Foreign Studies, Department of British and American Studies
Program for the Improvement of Multi-skills in Education to Enable Students to Participate in the Modern Globalized World
International Workshop (Open to the public Language: English)

Live Radio

Talk Show Style Event/Workshop

ASK ASUKA!!

Date and Time: September 27th (MON),
15:15-16:30 (4th Period)
Place: Nagoya Campus, G30
Student Host: Ayumi Moraes (3rd Year)

Color Commentator: Robert Hewer

Radio-i DJ Asuka Naito is a
global multi-lingual/cultural LIFE COMMUNICATOR,
radio & media personality, and movement expressionist
who believes in living holistically.



Sponsor: Nanzan University, Faculty of Foreign Studies,
Department of British and American Studies
Contact: The Department of British and American Studies GP Office
Tel: (052) 832 - 3111 (Ext. 3503)
Email: info-eibel-gp@nanzan-u.ac.jp
<http://eibel-gp.nanzan-u.ac.jp/index.html>

Are you over the back to school blues?
Do you want to start something new in your studies
and your career?
Talk to Radio-i DJ Asuka and she will inspire you with
some of her stories of success.
Ask this superwoman about her life philosophy and maybe
you will get some tips on how to jump onto the world stage.

Part 2: Beauty from Within

Date and Time: 2010 年 09 月 27 日 (月) 17 時 00 分～18 時 30 分

Place 南山大学名古屋キャンパス D 棟 D43

Lecturer: 内藤明日香

M.C.: 森本 萌子 (英米学科 3 年生)

Summary:

第5回国際ワークショップの後半は、Yoga 講師でもある内藤明日香さんによるヨガ文化についてのレクチャーと、自宅でも簡単にできるヨガを体験。「芯から美しく」を目標に、“心・体・食”のバランスを整えるライフスタイルを教えて頂きました。

実際に体を動かすことで、リラックスした時間を過ごすことができ、とても有意義な時間となりました。

Student Column Article: The Experience of Yoga for the First Time

The day of Asuka's Yoga lesson was the wonderful day for me. The Yoga lesson made me feel relax. Before I learnt about Yoga, my image of Yoga was that it concluded some difficult poses. However, Yoga was very different from that image. At first, Asuka san gave us oils which had very relaxing smells and we put them on our own bodies to just relax. Her voice was very kind and soft and the smell of the oils were great, so I already felt better before I started Yoga. After we relaxed, the Yoga lesson started. Actually there were no difficult poses even for the people who were not good at a kind of stretch and the poses were very simple so we all could focus on Yoga without any discomfort. The poses were not so difficult, but I think every pose has some important meanings and every pose made us feel better spiritually. Asuka san was talking a lot while we were doing Yoga and I was impressed by her story. Every part of the poses took a lot of time so I could concentrate on Yoga and her story and it made me relaxed. Furthermore, she spoke very slowly so it was easy for me to absorb every word and it made me even more relaxed. There was a story I was particularly impressed by- she said that “we don't have to think about yesterday and tomorrow. We are now here, so just think about now. We don't have to care about the past and future, but we can think about just now.” It is not the same as her words but I was released from something which made me feel uncomfortable. It was very important opportunity for me not only to do Yoga but also to listen to her story and think about myself. I want to try Yoga again.



An Events Group
(A sub-group of the GP
Student Committee) meeting
to discuss the Asuka Naito
workshops



GP Leader, Moeko, helps Ms. Naito run the event and GP Leader, Maiko, records the event by taking photos



Ms. Naito talks about the history and philosophy of Yoga



Program for Promoting University Education Reforms
Supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Nanzan University, Faculty of Foreign Studies, Department of British and American Studies
Program for the Improvement of Multi-skills in Education to Enable Students to Participate in the Modern Globalized World
International Workshop (Limited to Undergraduate and Graduate Students of Nanzan University Language: English)

Beauty from Within

September 27th, 2010 (Mon)

17:00-18:00 (5th Period)

Nanzan University, Nagoya Campus,
Room D43

Student Host: Moeko Morimoto (3rd Year)

Limited to Undergraduate and Graduate
Students of Nanzan University

Note: Please bring a bath towel.
Please wear suitable clothing
for Yoga and easily removable
shoes.

*Eastern culture has long held
fascination in the West.*

*Yoga, in particular, has been
practiced in America and made
famous by many Hollywood stars,
seeking balance through a healthy
mind, body, and spirit,
which is the core of yoga teachings.
This workshop focuses on the
culture of yoga and its teachings
while also providing an opportunity
to learn basic yoga stretches.*

芯から美しく



Asuka Naito

- * spent her childhood in Europe, went to high school & university in the U.S.
- * fluent in 3 languages: English, French, and Japanese
- * Radio DJ (79.5FM RADIO-i MORNING LIVE)
- * Holistic Consultant
- * currently creating a program for Japanese people with the Himalayan Institute's Spiritual Head, Pandit Rajmani Tigunait, PhD.
- * deep interest in Raw Food, Macrobiotic Diet, Veganism, Vegetarianism and maintaining a healthy mind and body through correct diet
- * representative of asucar therapia inc.
- * professional dancer and dance instructor (domestically and internationally for 25 years)

Sponsor: Nanzan University, Faculty of Foreign Studies, Department of British and American Studies

Contact: The Department of British and American Studies GP Office

Tel: (052) 832 - 3111 (Ext. 3503) Email: info-eibei-gp@nanzan-u.ac.jp

<http://eibei-gp.nanzan-u.ac.jp/index.html>

第6回国際ワークショップ

Joint Presentation Workshop & Discussion Session

Date and Time: 2010年10月20日(水)

13時30分～15時00分 (presentations)

15時00分～16時30分 (discussion session)

Place: 南山大学名古屋キャンパス G棟 G30 (presentations) , G棟 G26 (discussion session)

Participants: ハワイ大学ヒロ校学生、ハワイ大学マノア校学生、GPプログラム学生委員会

M.C.: Aya Kawakami (外国語学部英米学科 GP 嘱託講師)

Summary:

このワークショップは、GPプログラムの **Hawaii Week** のメインイベントでした。ハワイ大学の学生が来校する前から、ハワイ大学の学生と GP の学生は、電子メールと **Skype** を使って、共同のプレゼンテーションに取り組み始めました。一般的なハワイやアメリカの生活を、日本の生活と比較したプレゼンテーションとなりました。技術的困難、時差、言語や文化の違いを克服しながら、学生達は興味深いプレゼンテーションを作り上げました。より重要だったのは、パートナーの文化や自分自身の文化について新しい発見をしたことです。さらに、GP の学生はアメリカンスタイルのアカデミックディスカッションを実体験したことで、得たことは大きいと思います。イベント終了後もディスカッションは続きました。

Student Column Article: Joint Project Presentation with Hawaii Students

I applied to be a member of the joint project with Hawaii students this time because I wanted to interact with them as much as possible and also I wanted to be able to speak and present my idea freely in front of people. Since it was my first time to do a presentation outside the classroom, I was very nervous and worried about this event. However, when I first got an e-mail from the two students of Hawaii, my worries disappeared. They told me they are very happy and excited to work together and those words made me feel confident that we'll do a great presentation together as a team. First, we tried to figure out when is the best time to talk on Skype, since we were all busy with school and after school activities. Moreover, we had a problem with time difference in Hawaii and Japan. Although it was difficult figuring out the best time for all the students to talk, thanks to the Hawaii students' great help, we managed to arrange the Skype meeting. We e-mailed back and forth even before our first Skype meeting, but I was still nervous to do a first meeting. Fortunately, all of our members had the same idea about our topic and it was very smooth choosing a topic. We divided the role for each student briefly by deciding who will research what and arranged another Skype meeting. As the time of their arrival to Japan got closer, I got very nervous and worried again because I felt we didn't have enough time to prepare everything. Contrary to my worries, our power point was almost done for the presentation by the time they got to Japan. We arranged another meeting in Japan to make sure the presentation will go smoothly and we worked together for our last check in room L202. It was great because we actually could talk to each other in person. On the day of the presentation, I was super nervous to present in front of people, but when I started talking, my tension went away and actually I enjoyed it. I was impressed after our presentation was over with our team and I was very glad that it went successfully. Although it was very scary at first, I'm thankful that I got this opportunity to work together with them as a team. I really enjoyed the event and it motivated me to try many new things. It was great experience!

参加学生のコメント

- ・日本とアメリカの文化や教育について理解できました。日米を比較しながらトピックについて考えることができたので良かったです。ビデオやコントが入っていたので、楽しく学ぶことができました。(英米学科 4 年)
- ・ Everyone did a wonderful job doing their presentations. They all had visual aids and even video clips that made it easier for us to understand. Everyone spoke in a clear loud voice and good pronunciation made it easier to understand as well. Well done. (英米学科 2 年)
- ・日本ではあまりネイティブのスピーチを聞く機会がないので、ネイティブのスピーチを聞けて楽しかったです。(経済学部)
- ・英語を使つてのディスカッションだったので、会話についていくのが大変でした。色々な意見・経験を聞くことができてよかったと思います。(英米学科 4 年)
- ・ I really enjoyed this discussion. I could hear lots about dialect, education, school and so on. Then it was hard time to discuss with English. (英米学科 2 年)
- ・ふだん日本人同士でこんな真剣なディスカッションをしたことがなかったので、新鮮で楽しかった。(英米学科 1 年)
- ・色々なバックグラウンドを持つ人の意見が聞けたので、とてもおもしろかった。(英米学科 1 年)



GP and University of Hawaii students having final discussions prior to presenting



A presentation on dialects



GP Student Committee member stating her opinion during the discussion session



Program for Promoting University Education Reforms
Supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Nanzan University, Faculty of Foreign Studies, Department of British and American Studies
Program for the Improvement of Multi-skills in Education to Enable Students to Participate in the Modern Globalized World
International Workshop (Open to the public Language: English)

Nanzan University & University of Hawai'i Joint Presentation Workshop

Date: October 20th, 2010

Time: 13:30~

Place G30 (then various locations)

Description:

Students from the Eibei Dept. & the University of Hawai'i have been working on a joint presentation comparing aspects of life in Japan and in America. Each group will do a brief presentation. After the presentations, each group will lead a discussion of their topic with members of the audience.

Sponsor: Nanzan University, Faculty of Foreign Studies,
Department of British and American Studies
Contact: The Department of British and American Studies GP Office
Tel: (052) 832 - 3111 (Ext. 3503)
Email: info-eibei-gp@nanzan-u.ac.jp
<http://eibei-gp.nanzan-u.ac.jp/index.html>

第7回国際ワークショップ

Student Cross-cultural Reflection Presentation Workshop

Date and Time: 2010 年 10 月 22 日 (金) 17 時 00 分～18 時 30 分

Place: 南山大学名古屋キャンパス D 棟 DB1

Participants: ハワイ大学ヒロ校学生、ハワイ大学マノア校学生、GP プログラム学生委員会

M.C.s: 鈴木達也 (外国語学部英米学科長)

Aya Kawakami (外国語学部英米学科 GP 嘱託講師)

Summary:

とても短い期間でしたが、ハワイ大学ヒロ校、マノア校の学生は、GP の学生と一緒に街を散策したり、お互いの文化や、自分自身の文化について学んだり、たくさんのアクティビティで充実した 1 週間となりました。このワークショップでは、ヒロ校チーム、マノア校チーム、GP チーム の 3 チームに別れ、自分たちが感じた文化的発見をじっくりと考えました。このワークショップは、笑いと涙のある感動的なものになりました。これは、この短い期間でどのくらい結びつきが強くなったか、ということの表れです。このイベントを通して、学校と学生の間により深いつながりができることを望んでいます。

Student Column Article: Friday Reflection Presentation

First of all, it was not until I tried joining the presentation for the first time that I realized it was on my own initiative. I was surprised that compared with us, all Hawaii students expressed their opinions very well without notes. By reflecting this week, we could know what we learned and felt for each other. Through this experience, they inspired me. I had a good time and I want to make full use of this experience for the next time.

参加学生のコメント

- ・普段、日本で生活している中であたり前になってしまっていて気付かなかった日本の良いところが、ハワイの学生のプレゼンテーションを通じてたくさん発見できて本当に良かったです。(英米学科 1 年)
- ・Hawaii students のプレゼンする力に驚きました。自分もあんな風になりたい、自分の意見を伝えられるようになりたいと強く思った。(英米学科 1 年)
- ・ハワイ大学院への留学を考えていたので、ハワイ大学からの生徒さんと関わることのできるチャンスがあったので、大変嬉しく思っています。日本の学生さんとハワイの学生さんの異文化体験談をきけてとても楽しかったです。今後自分が海外へ行く時、逆に留学生と交流をする時に役立つと思います。(聴講生)
- ・Hawaii と日本の生徒が同じ時間を共有して学び、理解し合うことのすばらしさを感じることができて勉強になりました。(その他)



GP Student Committee members presenting what they learned through the week



University of Hawaii Students making their presentations



The University of Hawaii Students, Professors, and the GP Students and GP core members



Program for Promoting University Education Reforms
Supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Nanzan University, Faculty of Foreign Studies, Department of British and American Studies
Program for the Improvement of Multi-skills in Education to Enable Students to Participate in the Modern Globalized World
International Workshop (Open to the public, Language: English)

Hawai'i & Nanzan

Student Cross-cultural Reflection Presentation Workshop “What we discovered”

Date: Oct. 22nd (Fri)

Time: 17:00~

Place: DB1

Event Description:

- *3 Presentations (Eibei, Manoa, and Hilo Students)
- *Topic: “What we discovered”
- *Interactive workshop
- *Open to the public

University of Hawai'i:

Ten students from the University of Hawai'i at Manoa and at Hilo were invited by Eibei's GP Project. For what purpose? It is our hope that through spending time with these students, by acting as hosts and working on joint projects, that they will discover, not only about other cultures and break down their cultural preconceptions, but also discover their own culture through fresh eyes.

Sponsor: Nanzan University, Faculty of Foreign Studies,
Department of British and American Studies
Contact: The Department of British and American Studies GP Office
Tel: (052) 832 - 3111 (Ext. 3503)
Email: info-eibei-gp@nanzan-u.ac.jp
<http://eibei-gp.nanzan-u.ac.jp/index.html>

第8回国際ワークショップ

Meet the U.S. Ambassador

Date and Time: 2010年11月5日（金）15時45分～16時45分

Place: 南山大学名古屋キャンパス D 棟 DB1

Lecturer: John V. Roos（駐日米国大使）

M.C.: 鈴木達也（南山大学外国語学部英米学科長）

Summary:

私たちのキャンパスにアメリカ合衆国の大使をお招きしたことは、南山大学の歴史に残る出来事となりました。ルース大使の講演はタウンホールミーティング形式で行われました。

まず、日米関係の重要性について話され、その後、ルース大使と英米学科生との活発なやりとりへと続けました。学生はルース大使に自分自身で考えた質問をし、それに対し、ルース大使からは「リアルタイム」な返答を受けることができました。

話題は多岐に亘りました（以下は質問例）

- オバマ大統領個人についてと現在の政策と人気
- アメリカの医療制度改革
- 日米関係の現在の状況
- 核兵器廃絶問題、今とこれからの世代に対する広島と長崎の意味
- 大使に任命され、どのように感じたのか

学生や教授たちは興奮の中で、活発な意見交換をしました。イベント後に学生から受け取った前向きなフィードバックの数は、このプログラムが彼らにどのように感銘を与えたか、そして、未来における国際交流のためには、このような機会を持ち続けることがどれくらい重要かを表しています。

このイベントが実施できるように、GP プログラムのために惜しみないサポートをしてくださった、名古屋アメリカンセンター（在名古屋アメリカ領事館）、アメリカ合衆国大使館（東京）、警視庁、愛知県警、昭和警察署、文部科学省のすべての組織と人々に感謝いたします。今回のイベントを実施するにあたり、助力してくださった大学の職員、そして、言うまでもなく、多忙なスケジュールの中、南山大学のキャンパスを訪問してくださったルース大使に、私たちは心から感謝いたします。

Student Column Article: Meeting the U.S. Ambassador

The general plan was already in the works by August, but without an official approval from the Ambassador, we were told not to spread rumors about this event. I think it was early October when the GP office started advertising the big event and recruited students to apply and participate. Although I had very poor knowledge of diplomacy, I was determined not to miss this precious opportunity to meet someone who you usually only see in picture or hear his remarks in the newspaper. Then, a few days before the event, there was another call to all GP members that two students were needed as representatives. Of course, I applied for this role, too, but little did I expect to be lucky enough to actually get the job. The night before the big day, I was informed that I won the lottery and was chosen as one of the representatives. Being as excited as could be, I searched through my closet to dig up a suitable outfit for the special occasion.

On the actual day: November 5th, my heart was pounding fast from the moment I woke up. As much as I was excited to meet the ambassador, I was also very nervous about fulfilling my duty. It was nothing difficult, just handing him a Nanzan towel as a gift, holding it up for the audience to see. But what if I tripped going up the stage? What happens if I accidentally dropped it, should I just pick it up from the floor casually and hand it to him anyway? Wouldn't that be sort of rude? I had no idea what might happen.

It took place during 4th period. I was given a ribbon to put on my chest, which proved that I was allowed to approach the Ambassador. The lecture turned out to be more of a discussion because Ambassador Roos preferred that the participants ask questions one at a time so he could answer each, mostly related to nuclear disarmament in great depth. I was hoping to ask a question of my own, but I realized I needed to study more before I could even come up with one. The Q&A session lasted about an hour or so, and it was finally time for my representative's role. My partner was a junior, who I always admired a lot. She was kind to me on that day, too, reassured me that everything was going to be fine. When we saw the sign that the representatives were to make their moves, I followed my partner to the stage. As I recall the scene now, it must have been only about 3 minutes, but it felt much longer at the time. He first received the flowers from my partner and said some joke, then I unfolded the towel I was holding tightly and he took a good look at it. By then my nerves were mostly gone and was able to enjoy the atmosphere. We all took many pictures with Mr. Roos and his friendliness almost made me forget he was in such a high position. I have had many unforgettable, great moments at Nanzan, but this was surely one of the best ones ever!



GP Student Committee representatives thanking Ambassador Roos

参加学生のコメント

- ・こんなに間近にルース大使を見ることができ、またお話を伺えてとても良かったです。知らなかったことまで生で聞け、いい勉強になりました。(英米学科 1 年)
- ・質問者が英語ですらすら話していて、私も英語で自分の意見を自由に表現できるようになりたいと思った。(英米学科 1 年)
- ・ルース大使のお話を生で聞けて良かったです。とても異文化理解力の向上につながりました。(英米学科 1 年)
- ・アメリカと日本との良い関係を築くことが大事なのだと改めて感じた。私たちは英語を勉強することを通して、アメリカと日本との関係について、より深く考えることが必要だと思う。(英米学科 1 年)
- ・講演会に参加することができて、とても良かったです。原爆のことをはじめ、教育、ベンチャービジネスの事など、いろんな話を聞けて、大使としての意見を聞くことができました。今日の講演会でさらに、アメリカへの関心が深まった気がします。(英米学科 1 年)

- ・すごく貴重な機会で、参加できて本当に嬉しかったです。外交についての質問は難しいものも多くありましたが、さらに勉強する意欲につながりました。(英米学科1年)
- ・貴重な経験ができて本当に良かったです。普段、大使の方に直接お会いできないので、とても刺激的だった。日本とアメリカの **relationship**、外交が実際に行われているという事がいつもより強く感じる事ができた。(英米学科2年)
- ・とても貴重な機会であり、南山大学でなければありえないことだと思い、南山大学の学生としてとても嬉しいです。ルース大使の言った **people to people** のこの先を担っていくのは僕たち若い世代だと思うので、刺激になりました。(英米学科3年)
- ・アメリカの政治のことや、核廃絶について、貴重なお話が聞けて、とても良い機会でした。学生から自由に質問出来るスタイルがとても良かったです。またこのような機会があればぜひ参加したいです。(英米学科3年)
- ・ルース大使のお話を生で聞くことができ、本当にためになりました。核兵器の話など、ゼミの今後の活動に大きくつながりました。参加することができて本当に良かったです。(英米学科3年)
- ・こんな素晴らしい講演をきくことができ感動しました。核問題で、ヒロシマ・ナガサキなど答えづらい質問にもしっかり答えていただき、卒論の勉強に非常に役立ちました。(英米学科4年)
- ・すごく気さくに質問に答えてくださって、楽しかったです。本当に優しく温かい方だと思いました。国際関係学、そして英語の勉強になりました。(英米学科4年)
- ・ **Ambassador** というポジションにある人のお話で、発言にも責任をもってお話をしてくださったと思うので、今日聞いた貴重なお話は、私も自信を持ってその他の人へ発信していけると思い、素晴らしい時間を過ごせたと思いました。(英米学科4年)
- ・ルース駐日大使のお話をこんなにも間近に、かつ質疑応答の時間も設けていただき、大変有意義な時間が過ごせました。(英米学科4年)
- ・こんな貴重な体験をいただけて光栄でした。もう少し長い時間があれば良かったです。あっというまの時間でした。(英米学科4年)



Many GP students awaiting Ambassador Roos



Department Chair, Professor Tatsuya Suzuki,
introducing Ambassador Roos



Ambassador Roos



A student asking Ambassador Roos a question

第9回国際ワークショップ

“Japan” Represented in the U.S.: Politics, Economics, and Culture

Date and Time: 2010年12月13日(月) 13時30分～15時00分

Place: 南山大学名古屋キャンパス J棟 J31

Lecturer: Ariel Roth (Johns Hopkins University, Director of Global Security Studies)

M.C.: 花木 亨 (外国語学部英米学科准教授)

Summary:

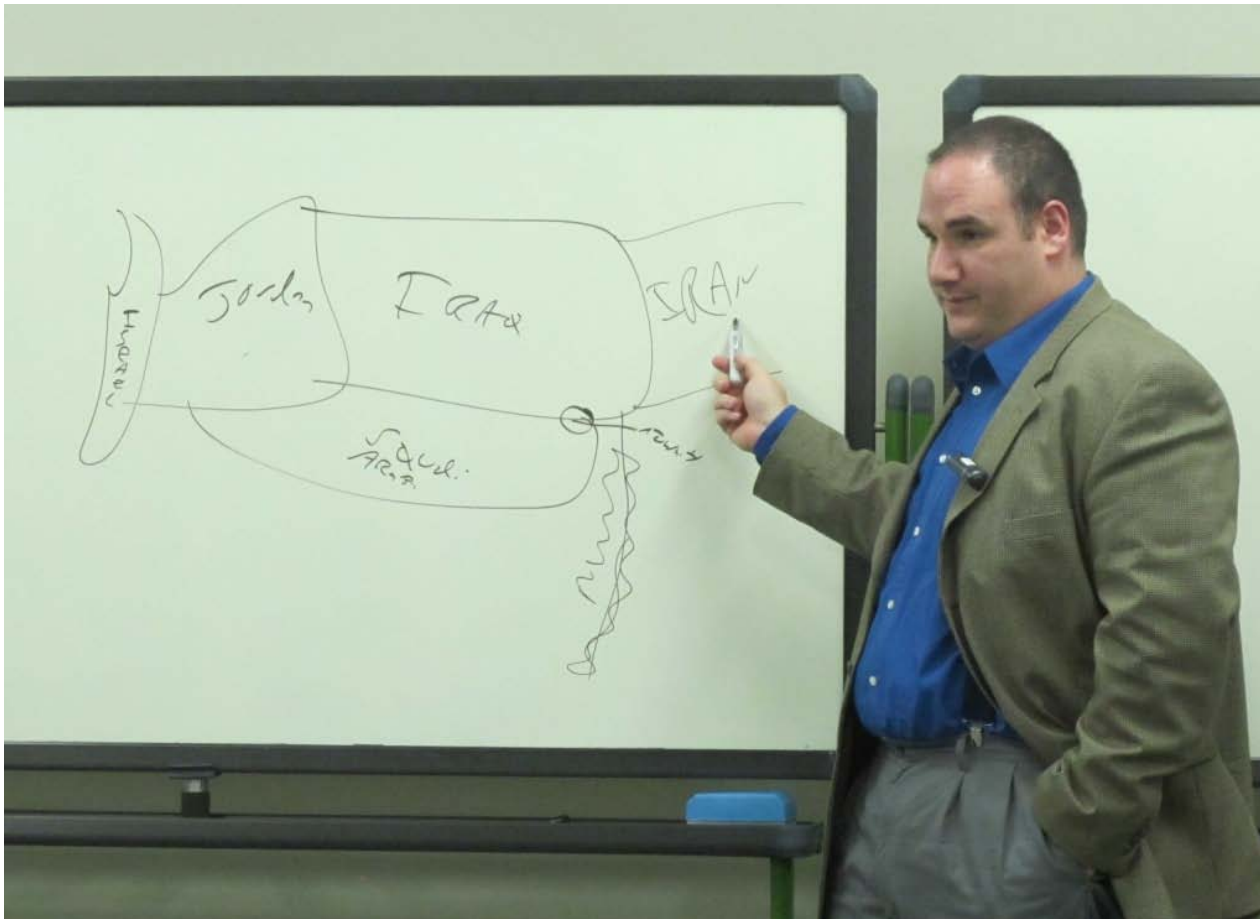
第9回国際ワークショップはくつろいだ雰囲気の中で開催されました。花木先生と山岸先生の合同授業にジョンズホプキンス大学の **Ariel Roth** 博士をお招きし、アメリカ人が日本に対して抱くイメージについて議論しました。アメリカ人の日本に対するイメージはどのように変化してきたか、アメリカはどの程度日米関係を重視しているか、日米関係の将来はどうなるのか等、様々な事柄について語り合いました。**Roth** 博士はアメリカ人が日本に対して抱くイメージの変遷を以下のように要約しました—日本はアメリカにほとんど無視された存在から、第二次世界大戦時には敵国、戦後には同盟国であると同時に商売敵へと変化し、今日では再び影の薄い存在へと戻りつつあるとのこと。Roth 博士の独特な視点から学生たちは多くの示唆を受け取ったようです。ワークショップは学生を交えた活発な質疑応答で締め括られました。

参加学生のコメント

- ・全く知らなかった外交のことや国同士の関係についてたくさんお話を聞くことができたので、とても良い勉強になりました。今回のように人数が少ないと、質問もしやすいのでとても良かったと思います。
- ・今までに少ししか考えたことのなかった事柄について触れることができ有意義だったと思います。やはり現地の方、長年研究を重ねてきた方の講義は非常に説得力があって納得させられました。



Dr. Roth's lecture



Dr. Roth answering a question on the white board



Student asking Dr. Roth a question



Program for Promoting University Education Reforms
Supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Nanzan University, Faculty of Foreign Studies, Department of British and American Studies
Program for the Improvement of Multi-skills in Education to Enable Students to Participate in the Modern Globalized World
International Workshop (Limited to Eibei Students, Language: English)

“Japan” Represented in the U.S.: Politics, Economics, and Culture

Date & Time: **December 13th (Mon), 13:30~15:00**

Room: **Nanzan University, Nagoya Campus J31**

Guest speaker: **Ariel Roth**
**(Johns Hopkins University,
Director of Global Security Studies)**

Moderator: **Toru Hanaki**
(Nanzan University, Associate Professor)



Guest Speaker: Ariel Roth

Dr. Roth holds a Ph.D in international relations from The Johns Hopkins University, where he is currently the director for the graduate program in National Security Studies and the MA in Global Security Studies. Dr. Roth has published several articles such as “Nuclear Weapons in Neo-Realist Theory”, “Balancing and the Bible”, and “The Root of All Fears”. His first book, Leadership in International Relations: The Balance of Power and the Origins of WW2, will published in October 2010. Dr. Roth is a member of the International Studies Association, the American Political Science Association and the Committee for the Analysis of Military Operations and Strategy, and presents regularly at conferences. Roth is an occasional commentator on foreign policy and security matters in local and international newspapers and a frequent guest lecturer on international security matters.

Sponsor: Nanzan University, Faculty of Foreign Studies,
Department of British and American Studies
Contact: The Department of British and American Studies GP Office
Tel: (052) 832 - 3111 (Ext, 3503)
Email: info-eibei-gp@nanzan-u.ac.jp
<http://eibei-gp.nanzan-u.ac.jp/index.html>

2.2 講演会

第3回講演会

GP Thesis Writing Preparation I : “Writing Basics, thesis revision procedure, plagiarism, etc” and “My thesis writing experience, success and failures, peer advice”

Date and Time: 2010年7月14日(水) 13時30分～15時00分

Place: 南山大学名古屋キャンパス B棟 B11

Lecturers: Aya Kawakami (GP Project Director)

Nami Tanaka (Nanzan University, 1st year M.A. student)

M.C.: Aya Kawakami (GP Project Director)

Summary:

卒業論文の制作についてのワークショップシリーズ第一弾を開催しました。第一部では、GP プロジェクトディレクター兼、英米学科のライティングアドバイザーである川上綾先生による講演（ライティングの基礎・剽窃・表記法）を行いました。第二部では、昨年の英米学科の卒業生であり、現在南山大学国際地域文化研究科の大学院1年生である田中奈美さんによる、自身の卒業論文制作の体験談（成功と失敗談、学生へのアドバイス）を行いました。英米学科生1年生～4年生が参加、質疑応答も盛んに行われ、大変有意義な場となりました。

Student Column Article: “Third Year Students Too!”

I think it was really a good start for senior students to get started their thesis papers. We could learn the basic knowledge how to deal with a thesis paper and listen to the great experience from our senior. All attendants were given a great deal of advice and found out what they have to do for their thesis paper briefly. However, some students have begun to do research and the workshop was held close to examination. So, it is better to hold the first workshop earlier such as May or June. If so, more students can get an opportunity to attend this useful workshop and be ready for a thesis paper in earlier time. In addition, actually I am a junior, so, I think, it is also important to hold this kind of workshop for junior students since they have started to study their area in their seminar and focused on their own academic field more deeply. As a whole, this workshop was a great help for all students, and I expected the next workshop to focus in on more details.



Aya Kawakami's lecture for the GP Thesis Writing Preparation I Lecture



Nami Tanaka's lecture for the GP Thesis Writing Preparation I Lecture



Q&A time with Ms. Kawakami and Ms. Tanaka



GP Student Committee members passing out lecture notes and surveys before the lecture

参加学生のコメント

- ・具体的な体験談を聞くことができ、自分の卒論の進め方もイメージしやすくなったので、有意義な時間を過ごすことができました。(英米学科 4 年生)
- ・先輩が実際に体験されたことを聞けて、どんなことが必要か話して頂けて、とてもためになりました。(英米学科 3 年生)

GP Thesis Writing Preparation I

Advice from a graduate and writing advisor



Workshop description:

Two speakers will be talking about various aspects of writing a senior graduation thesis.

Aya Kawakami: writing basics,
thesis revision procedure,
plagiarism, etc.

Nami Tanaka: my thesis writing experience,
success and failures,
peer advice

Aya Kawakami: GP Project Director and Writing Advisor
for the Department of British and American Studies.

M.A. in Applied Linguistics (TESOL) Maquarie University.

Has been a writing advisor at Nanzan University since 2009



Nami Tanaka: Recent graduate of the Department
of British and American Studies. Currently a Master's
student at the Department of British and American
Studies.

Date: July 14th, 2010 (Wed)

Time: 13:30-15:00

Location: B11

第4回講演会

GP Thesis Writing Preparation II : “卒業論文制作の基本”振り返り+α

Date and Time: 2010年9月22日(水) 13時30分～15時00分

Place: 南山大学名古屋キャンパス D棟 DB1

Lecturer: Aya Kawakami (外国語学部英米学科 GP 嘱託講師)

M.C.: Aya Kawakami (外国語学部英米学科 GP 嘱託講師)

Summary:

卒業論文の制作についてのワークショップシリーズ第二弾。今回は第一回“卒業論文制作の基本”振り返り+αを開催。前回同様、GP プロジェクトディレクター兼、英米学科のライティングアドバイザーである川上綾先生による講演(ライティングの基礎・剽窃・表記法・Q&A)が英語で行われました。英米学科生1年生～4年生が参加、学生からの質疑応答も盛んに行われ、大変有意義な場となりました。



Aya Kawakami's Lecture



Q&A session after the lecture

英米学科の皆さんへ

英米 GP 卒業論文の制作の手引き II



日時：9 月 22 日（水）13 時 30 ～ 15 時

場所：南山大学名古屋キャンパス DB1

講師：Aya Kawakami (Writing Advisor)

対象：英米学科生 言語：英語

卒業論文制作の手引きをシリーズ化。
第 2 回は初回の振り返り+αを行います。
今後のスケジュールも記載しましたので、
英米学科の皆さん、ぜひ参加して下さい。

◆Schedule

第 1 回 7 月 14 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Introduction to senior thesis writing “

～ 卒業論文作成の基本

終了

第 2 回 9 月 22 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Introduction to senior thesis writing (encore)

～ 卒業論文作成の基本（前回の講演の復習+α）

第 3 回 10 月 6 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Plagiarism ～著作権について”

第 4 回 10 月 13 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Powerpoint Tips for your Thesis Presentation

～ 卒業論文中間発表に向けてのパワーポイント活用

第 5 回 10 月 27 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Final Q&A Session～

All you've ever wanted to know about thesis writing”

～ これまでの Q&A に答えるセッション

◆Aya Kawakami

GP プロジェクトディレクター兼、
英米学科ライティングアドバイザー
2008 年マツコリー大学の応用言語学
(TESOL) にて M.A. を取得
2009 年から南山大学英米学科にて、
ライティングアドバイザーとして勤務



主催 : 南山大学外国語学部英米学科
問合せ先 : 英米学科 GP 事務局 (L204、205)
担当 : GP プロジェクトリーダー 川上 綾
電話 : 052-832-3111 (内線 3503)
E-mail : info-eibei-gp@nanzan-u.ac.jp

第5回講演会

GP Thesis Writing Preparation III: Plagiarism

Date and Time: 2010年10月06日(水) 13時30分～15時00分

Place: 南山大学名古屋キャンパス B棟 B11

Lecturer: Aya Kawakami (外国語学部英米学科 GP 嘱託講師)

M.C.: Aya Kawakami (外国語学部英米学科 GP 嘱託講師)

Summary:

卒業論文の制作についてのワークショップシリーズ第三弾。今回はこれまでのワークショップのアンケートで要望が多かった、著作権について学びました。より身近に感じてもらうために、**Quiz**形式で実際に論文が剽窃なのかどうか、正しい表記方法など、学生が日ごろ疑問に思っていることに応えたセッションとなりました。



Aya Kawakami's Lecture



Quiz style lecture

英米学科の皆さんへ

英米 GP 卒業論文の制作の手引きⅢ



日時：10 月 6 日（水）13 時 30 ～ 15 時

場所：南山大学名古屋キャンパス B11

講師：Aya Kawakami (Writing Advisor)

対象：英米学科生 言語：英語

卒業論文制作の手引きをシリーズ化。
第 3 回は英米学科の皆さんから要望の多かった、
著作権について詳しくレクチャーします。
今後のスケジュールも記載しましたので、
英米学科の皆さん、ぜひ参加して下さい。

◆Schedule

第 1 回 7 月 14 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Introduction to senior thesis writing “

～ 卒業論文作成の基本 **終了**

第 2 回 9 月 22 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Introduction to senior thesis writing (encore)

～ 卒業論文作成の基本（前回の講演の復習 + α）

終了

第 3 回 10 月 6 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Plagiarism ～著作権について”

第 4 回 10 月 13 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Powerpoint Tips for your Thesis Presentation

～ 卒業論文中間発表に向けてのパワーポイント活用

第 5 回 10 月 27 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Final Q&A Session～

All you've ever wanted to know about thesis writing”

～ これまでの Q&A に答えるセッション

◆Aya Kawakami

GP プロジェクトディレクター兼、
英米学科ライティングアドバイザー
2008 年マツコリー大学の応用言語学
(TESOL) にて M.A. を取得
2009 年から南山大学英米学科にて、
ライティングアドバイザーとして勤務



主催 : 南山大学外国語学部英米学科
問合せ先 : 英米学科 GP 事務局 (L204、205)
担当 : GP プロジェクトリーダー 川上 綾
電話 : 052-832-3111 (内線 3503)
E-mail : info-eibei-gp@nanzan-u.ac.jp

第 6 回講演会

GP Thesis Writing Preparation IV: PowerPoint Tips for your Thesis Presentation

Date and Time: 2010 年 10 月 13 日 (水) 13 時 30 分～15 時 00 分

Place: 南山大学名古屋キャンパス B 棟 B11

Lecturer: Aya Kawakami (外国語学部英米学科 GP 嘱託講師)

M.C.: Aya Kawakami (外国語学部英米学科 GP 嘱託講師)

Summary:

卒業論文の制作についてのワークショップシリーズ第四弾。

今回は、11 月 10 日 (水) に開催される“卒論中間発表会”に向けて、Power point の活用についてのセッション。今回のアドバイスは、4 年生に限らず、参加している 1 年生から 4 年生まで、ビジネスや他のプレゼンテーションに応用できます。講義は、プレゼンテーション内容の重要性と同様に、PowerPoint でのプレゼンテーションの視覚的側面に焦点をあてました。最終的には、“keep it simple and straight”(KISS 原則)が BEST で、PowerPoint は、効果的な視覚ツールであるが、プレゼンテーションが成功するかどうかを決めるのは、内容構成や、どれだけ上手く伝えられるかの練習によると学びました。

参加学生のコメント

- ・今後のプレゼン作成を見直す良い機会になりました (英米学科 3 年)
- ・パワーポイントの効果的な使い方を知れてとても役に立った。Aya さんの英語はとても聞きやすく頭に入りやすかった。(英米学科 1 年)
- ・とても分かりやすかったです。特に You Tube を使っていたのが効果的だった。(英米学科 4 年)



Aya Kawakami's lecture



Ms. Kawakami answering student questions

英米学科の皆さんへ

英米 GP 卒業論文の制作の手引きⅣ



日時：10 月 13 日（水）13 時 30 ～ 15 時

場所：南山大学名古屋キャンパス B11

講師：Aya Kawakami (Writing Advisor)

対象：英米学科生 言語：英語

卒業論文制作の手引きをシリーズ化。

第 4 回は卒業論文中間発表（11 月 10 日（水）開催）に向けての、パワーポイント活用をレクチャーします。

論文発表に欠かせないパワーポイントの技術を

英語で学びませんか？英米学科の皆さん、ぜひ参加して下さい。

◆Schedule

第 1 回 7 月 14 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Introduction to senior thesis writing “

～ 卒業論文作成の基本

終了

第 2 回 9 月 22 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Introduction to senior thesis writing (encore)

～ 卒業論文作成の基本（前回の講演の復習 + α）

終了

第 3 回 10 月 6 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Plagiarism ～著作権について”

終了

第 4 回 10 月 13 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Powerpoint Tips for your Thesis Presentation

～ 卒業論文中間発表に向けてのパワーポイント活用

第 5 回 10 月 27 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Final Q&A Session～

All you've ever wanted to know about thesis writing”

～ これまでの Q&A に答えるセッション

◆Aya Kawakami

GP プロジェクトディレクター兼、
英米学科ライティングアドバイザー
2008 年マツコリー大学の応用言語学
（TESOL）にて M.A. を取得
2009 年から南山大学英米学科にて、
ライティングアドバイザーとして勤務



主催 : 南山大学外国語学部英米学科
問合せ先 : 英米学科 GP 事務局 (L204、205)
担当 : GP プロジェクトリーダー 川上 綾
電話 : 052-832-3111 (内線 3503)
E-mail : info-eibei-gp@nanzan-u.ac.jp

第7回講演会

Dr. Dennis M. Ogawa's Lectures

Profile:

Dennis M. Ogawa 博士は 1969 年にカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) で博士号を取得しました。UCLA Asian American Studies Center 創設者の 1 人で、日系アメリカ人の歴史について何冊ものベストセラーを執筆しています。また Ogawa 博士の論文は、*The Annals of the American Academy of Political and Social Science*、*Journal of Communications*、*Journal of Black Studies* といった学術誌に掲載されています。その秀でた研究業績により、Ogawa 博士は East-West Center や日本学術振興会に上級研究員として招かれると同時に、国内外の様々な研究補助金を獲得しています。また教育者としての資質を称える Danforth Associate を授与されたり、ジェラルド・フォード大統領によってエスニシティと教育についてのホワイトハウス会議における講演者として招かれたりするなど、多方面から高く評価されています。さらに Ogawa 博士は、ハワイ日本文化センターやテレビ局などの組織で要職を務めるなど、地域貢献活動にも積極的です。1992 年には Hawaiian Historical Society より優れた歴史学者の称号を授与されました。現在はハワイ大学マノア校で教鞭を執っています。

Lecture 1: Common Bonds of Identity for Hawai'i's People in the 21st Century

Date and Time: 2010 年 10 月 18 日 15 時 15 分～16 時 45 分

Place: 南山大学 名古屋キャンパス B 棟 B11

Lecturer: Dr. Dennis M. Ogawa (ハワイ大学 マノア校 教授)

M.C.s: 花木 亨 (南山大学外国語学部英米学科准教授)

山岸 敬和 (南山大学外国語学部英米学科准教授)

Summary:

Unlike any other area in which Okinawans and Japanese migrated, in Hawai'i they became localized into an inclusive cultural system and attitude of island living. How did this localization take place? What are the implications of being local? This lecture focused on the bonds of commonality, the common outlook and beliefs shared by those who call Hawai'i home regardless of their ethnic or racial background. Three points of commonality were discussed: a population of minorities, an interracial state and sanctity of death.

Professor Hanaki and Yamagishi combined their classes, a mixture of Japanese and international students. Some University of Hawaii students also participated, making this a truly international audience with many perspectives being voiced during the Q&A session that followed.

Student Column Article: Dr. Ogawa's Lecture: An Interview with Professor Hanaki

On the 28th of October, I interviewed Prof. Hanaki about Dr. Ogawa's lecture which was held during the Hawaii week. I had not been able to meet Dr. Ogawa during his stay in Nanzan, and therefore only knew his face from a photo. So the first thing I asked Prof. Hanaki was his impression of Dr. Ogawa. According to him, Dr. Ogawa is a third-generation Japanese-American, and has been supportive in protecting women's rights for many years. At the University of Hawai'i, he is currently working to improve the position of Japanese-Americans on the islands. Next, we went into the lecture details. The main point was that Hawaii is a melting pot of minority races, in other words, everyone in Hawaii is a minority. Despite the fact that it is a part of the U.S. where white people are still the center of society, there are no such races or groups that are considered to be the mainstream in Hawaii. This fact is quite impressive, but another thing that surprised me was that a lot of people in Hawaii believe in spirituality. They deeply respect the dead, and even when it comes to politics, supernatural power can have a great influence on the administration. The lecture seems to have been very beneficial to the Japanese students and made them

come up with clever ideas. One of the participants writes: I thought the ghost story was interesting but why hasn't any religious antagonism risen in Hawaii? In the long history as a collective of islands made up of many minority groups, hasn't there ever been a time when the idea of nationalism took over Hawaii?



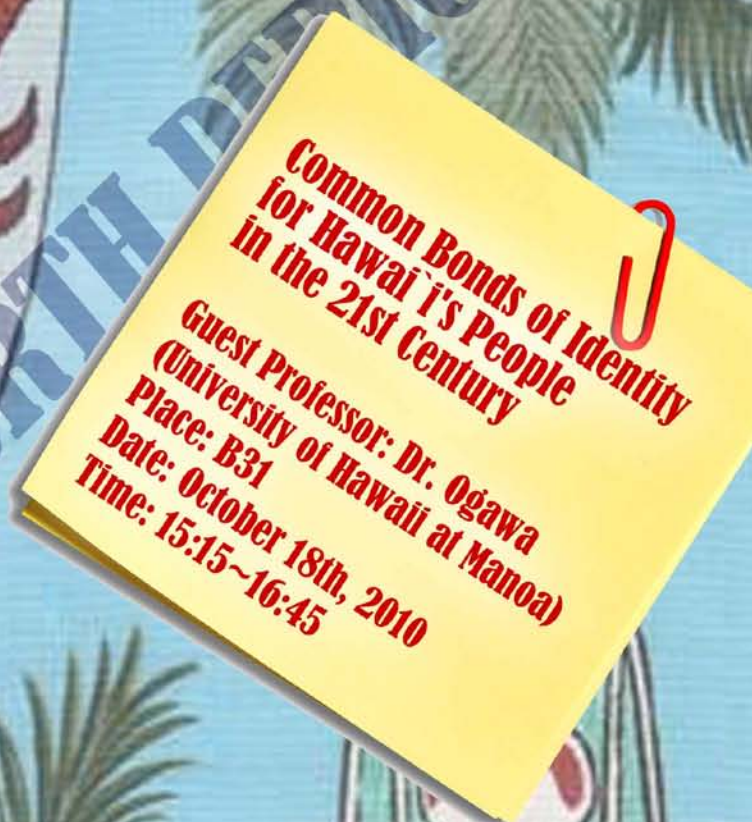
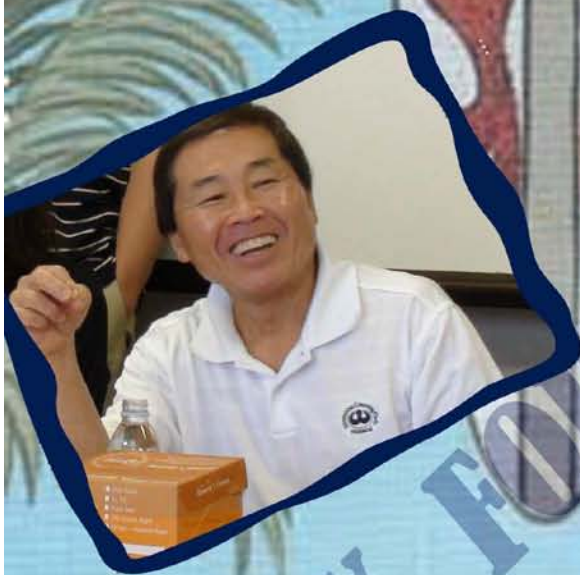
Students introducing themselves at the beginning of the workshop



Dr. Ogawa's lecture



Program for Promoting University Education Reforms
Supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Nanzan University, Faculty of Foreign Studies, Department of British and American Studies
Program for the Improvement of Multi-skills in Education to Enable Students to Participate in the Modern Globalized World
International Workshop (Open to the public Language: English)



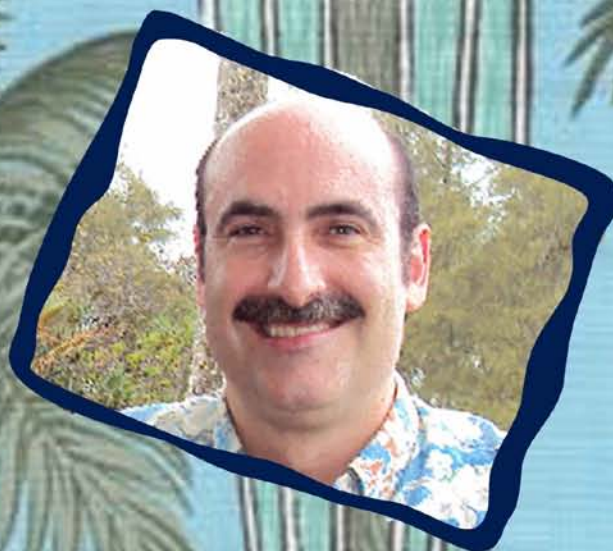
**Common Bonds of Identity
for Hawai'i's People
in the 21st Century**

**Guest Professor: Dr. Ogawa
(University of Hawaii at Manoa)
Place: B31
Date: October 18th, 2010
Time: 15:15~16:45**

October 18th, 2010

**Thoughts on the word order
and syntactic rules of English**

**Guest Professor: Dr. Saft
(University of Hawaii at Hilo)
Place: M1
Date: October 18th, 2010
Time: 15:15~16:45**



Sponsor: Nanzan University, Faculty of Foreign Studies,
Department of British and American Studies
Contact: The Department of British and American Studies GP Office
Tel: (052) 832 - 3111 (Ext. 3503)
Email: info-eibel-gp@nanzan-u.ac.jp
<http://eibel-gp.nanzan-u.ac.jp/index.html>

Lecture 2: America from the Outside: Discussion Workshop with Dr. Ogawa

Date and Time: 2010 年 10 月 19 日 11 時 05 分～12 時 35 分

Place: 南山大学名古屋キャンパス L 棟 910 会議室

Lecturer: Dr. Dennis M. Ogawa (ハワイ大学 マノア校 教授)

M.C.: 山岸 敬和 (南山大学外国語学部英米学科准教授)

Summary:

This event was similar to the round table discussion workshop with Mr. Scott Bates. Students from our department put forth questions to Dr. Ogawa about different aspects of Hawaiian life. The students of the University of Hawaii also provided their insights as well. The discussion showed Dr. Ogawa was a wonderful resource of living history and the students learned much of American culture, particularly Hawaiian culture.

参加学生のコメント

- ・今までにあまり取り組んだことのなかったトピックだったので、また新しいハワイで暮らす日本人の方々について考えるよい機会となりました。(英米学科 3 年)
- ・ Thank you for good speech about Hawaii. I knew situation of Japanese-American during WWII. I was interested in that. (英米学科 3 年)
- ・ Thank you very much for your lecture. I was very interesting to hear Hawaii history and conflict that 1st generation and second generation had. (英米学科 3 年)
- ・ Thank you for wonderful speech. I do my best for having honesty, smart and aggressive. You gave me a lot of energy. (英米学科 3 年)
- ・ You told us a lot of stories which I don't usually hear from our professor so I enjoyed your lecture very much. Thank you. (英米学科 4 年)
- ・ アメリカの一つの州を対象にして歴史や政治の話聞く機会は少ないので、今回は貴重な体験をしました。特にハワイは地理的に本土から離れている上に「アメリカ」となったのも遅いため、他のアメリカ政治・歴史の授業とは全く違う内容のお話を聞くことができ、興味深かったです。(英米学科 3 年)
- ・ Thank you very much for talking interesting story and giving us an opportunity to be here. (英米学科 4 年)
- ・ Thank you very much for your wonderful speech. I had a really great time with you. You talked very clearly so that it was easy to understand what you are saying. I would love to visit Hawaii someday. (英米学科 4 年)
- ・ ハワイの歴史について、これまで考えたことがなかったので、とても為になりました。日系人（一世、二世）がそれほどの ambition と potential を持ち、ハワイの歴史に名を残していたことを初めて知り、驚きました。ハワイと日本（アメリカを含め）が深く関わっていたことを知り、ハワイのことをもっと知りたいと思いました。(英米学科 3 年)
- ・ Thank you for your speech. Especially I was interested in the story about Japanese American. Today was the first time for me to hear about the situation for Japanese American during WWII. It was shocking! I think many people should know the people's place during war. It was a nice time to know about not only War, but also Hawaii! (英米学科 4 年)
- ・ Thank you for interesting story. I was really surprised at the fact of Hawaii. From now on, I want to research about the history of Hawaii. (英米学科 3 年)
- ・ このような授業が頻繁にあると楽しいし、学習意欲の向上につながります。(英米学科 4 年)



Dr. Ogawa answering student questions



Student questioner



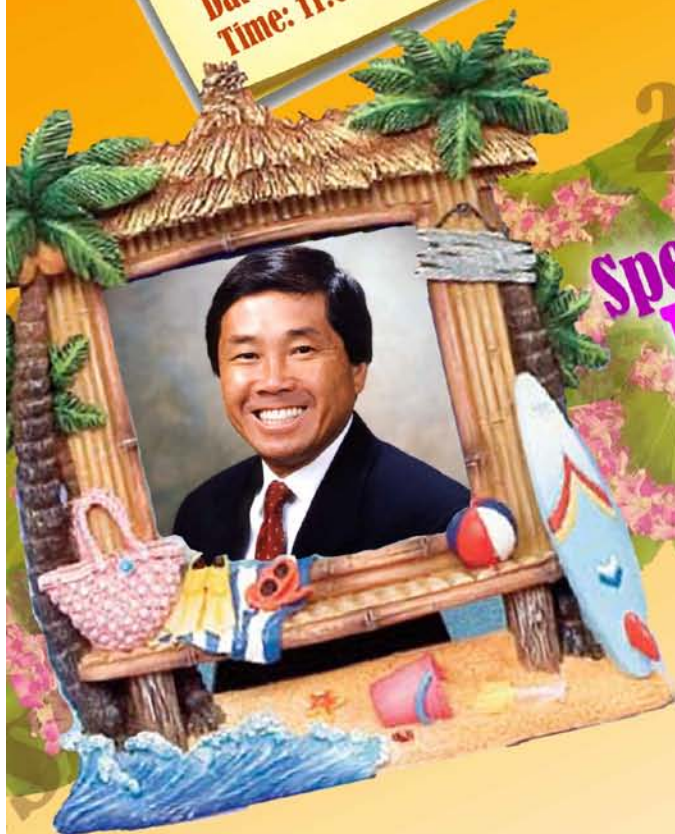
Program for Promoting University Education Reforms
Supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Nanzan University, Faculty of Foreign Studies, Department of British and American Studies
Program for the Improvement of Multi-skills in Education to Enable Students to Participate in the Modern Globalized World
International Workshop (Open to the public Language: English)

**Recognizing and appreciating
the similarities and differences
between English and
Japanese discourse**

**Guest Professor: Dr. Saft
(University of Hawaii at Hilo)
Place: P ROOM Q Building, 1st Floor)
Date: October 19th, 2010
Time: 11:05~12:35**



**Special Guests from
Hawaii**



**America from the Outside:
Discussion Workshop
with Dr. Ogawa**

**Guest Professor: Dr. Ogawa
(University of Hawaii at Manoa)
Place: L 910
Date: October 19th, 2010
Time: 11:05~12:35**

OCTOBER 19th, 2010

Sponsor: Nanzan University, Faculty of Foreign Studies,
Department of British and American Studies
Contact: The Department of British and American Studies GP Office
Tel: (052) 832 - 3111 (Ext. 3503)
Email: info-eibei-gp@nanzan-u.ac.jp
<http://eibei-gp.nanzan-u.ac.jp/index.html>

第 8 回講演会

Dr. Scott Saft's Lectures

Profile:

Scott Saft 氏は、ニューヨークはブルックリンで生まれ、美しいメイン州で育ちました。彼は、ハワイ大学マノア校で、日本語の言語学の博士号を取得しました。筑波大学での 3 年、北海道東海大学での 3 年を含む 8 年間で日本で過ごし、教鞭を執りました。現在は、ハワイ島ヒロの町に住み、Ka Haka 'Ula o Ke'elikōlani（ハワイ大学ヒロ校のハワイ語大学院）で言語学を教えています。彼の研究は、会話の分析について、そして、存続が危ぶまれる言語の保存に焦点を置いています。現在は、ハワイ語を復興させるために努力されています。

Lecture 1: Thoughts on the word order and syntactic rules of English

Date and Time: 2010 年 10 月 18 日 15 時 15 分～16 時 45 分

Place: 南山大学名古屋キャンパス M1

Lecturer: Dr. Scott Saft（ハワイ大学 ヒロ校 教授）

M.C.s: 有元将剛（南山大学外国語学部英米学科教授）

鈴木達也（南山大学外国語学部英米学科長）

Summary:

Dr. Saft presented a very good example of a GP lecture in many ways, for example, showing how to attract students who are not specialists of the field of the speaker, and how to make the lecture very informative on the one hand but entertaining on the other. Our project is not for graduate students, but for undergraduate students, many of whom have just begun studying specific contents in addition to the English language itself. Dr. Saft successfully blended basic technical ideas such as constituency in his relaxing speech with full of humor, occasionally referring to dialectal expressions and idioms in English. For the audience consisting of both University of Hawai'i students and Nanzan students, he tried to reveal some universal properties of linguistic structure that may often go unnoticed without special knowledge of syntax. Students were fully satisfied with, and appreciated, Dr. Saft's lecture both as a precious experience of a lecture given by a professor of an American university, and as a rare opportunity to learn something with people with different cultural backgrounds.

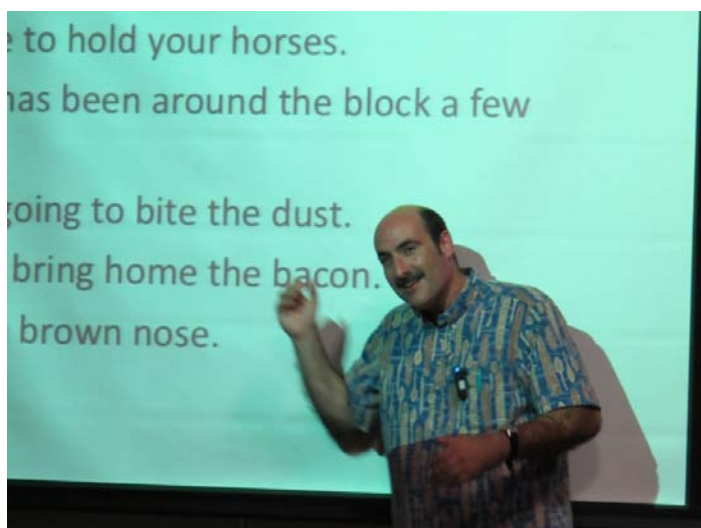
参加学生のコメント

- ・ To tell the truth, I thought the syntax is a little bit troublesome. But I learned a lot of things new to me and I found syntax interesting. Thank you for your nice lecture.（英米学科 3 年）
- ・ 普段の授業ではなかなか聞けないイディオムなどの話や、ハワイの言語の話は興味深かったです。ハワイからの学生さんもいたことで、日本人の学生のみがうける授業とは違った雰囲気も味わえて良かったです。（英米学科 3 年）
- ・ 講義が日本のスタイルと違い生徒と先生の距離が近いなと思いました。（英米学科 3 年）
- ・ イディオム、Pidgin part が大変おもしろかったです。特に pidgin はハワイならではのものもあるので、もっと知りたいと思いました。（英米学科 3 年）
- ・ 全て英語での講義だったため、海外の大学の様子が少し感じることができました。楽しかったです。（英米学科 3 年）
- ・ すべて英語の授業で自分のリスニング力不足がわかりました。日常々、英語の学習意欲を刺激されたとともに、外国のコミュニケーションを中心とした授業が新鮮でおもしろかったです。（英米学科 5 年以上）
- ・ ハワイの学生の積極的な姿勢がとても印象的でした。（その他）

- ・日本人の先生から受ける授業よりも、**active** な感じで新鮮でした。(英米学科 3 年)
- ・とてもおもしろい授業で、将来教員を目指す僕にとって、とても参考になりました。あんな風に英語で授業できたらいいと思います。(英米学科 3 年)
- ・英語力不足でたまにわからなかったこともありますが、英語学習意欲の向上には確実につながりました。ありがとうございました。(アジア学科 3 年)
- ・The lecture was very friendly to those who learn linguistics for the first time. His way of talking was very exciting! (英米学科 3 年)
- ・I enjoyed the lecture today. I got more interested in syntax and also the well-formalness sentences such as idioms and dialect. Thank you very much! (英米学科 3 年)
- ・いつもは日本語で言語学を学んでいるけれど、今日は英語で学べたので、とても刺激的でした。また、とても丁寧に教えて下さったので、理解しやすくとても興味深かったです。(英米学科 3 年)
- ・様々な英語特有の表現やネイティブの英語の捉え方がわかった。(英米学科 3 年)
- ・自由に質問ができる環境で講義を開くのは良い経験になると思った。(英米学科 3 年)
- ・良い経験になるので、またこういう機会をつくっていただけたらうれしいです。(英米学科 3 年)



University of Hawaii students participated in this lecture



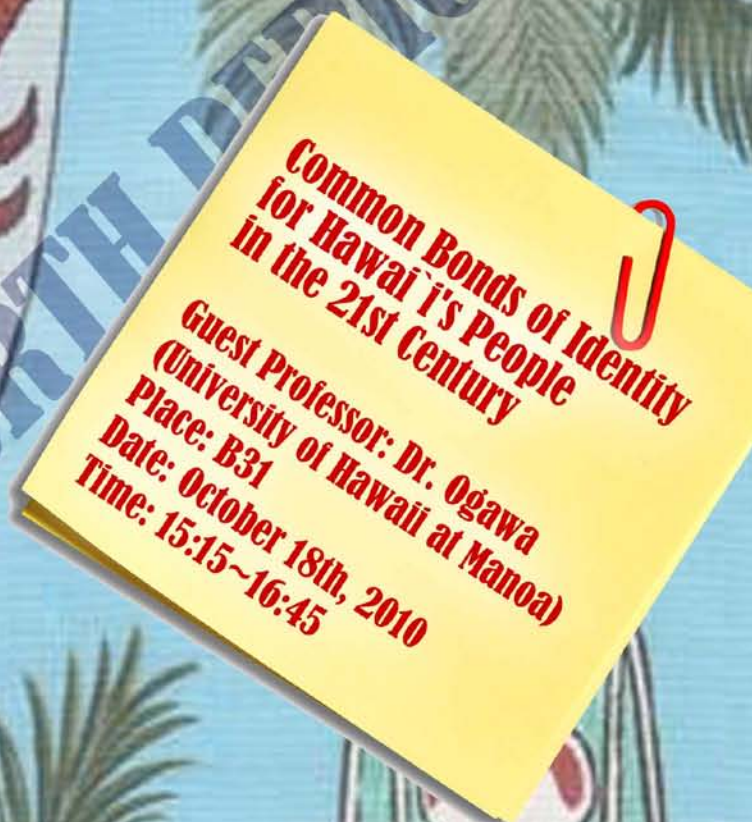
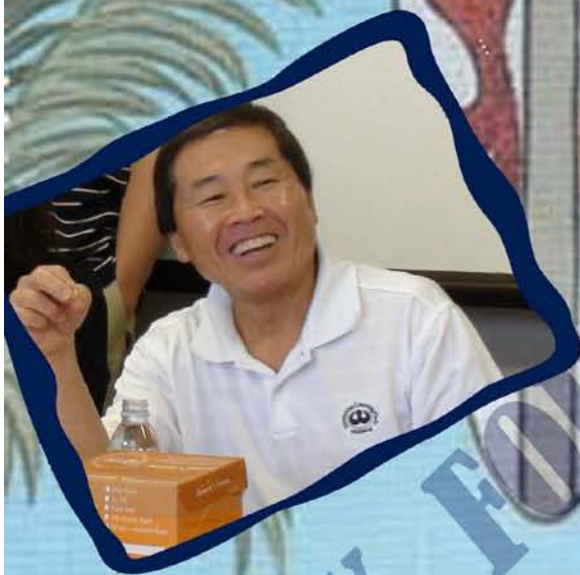
Dr. Saft's lecture



Dr. Saft eliciting students ideas



Program for Promoting University Education Reforms
Supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Nanzan University, Faculty of Foreign Studies, Department of British and American Studies
Program for the Improvement of Multi-skills in Education to Enable Students to Participate in the Modern Globalized World
International Workshop (Open to the public Language: English)



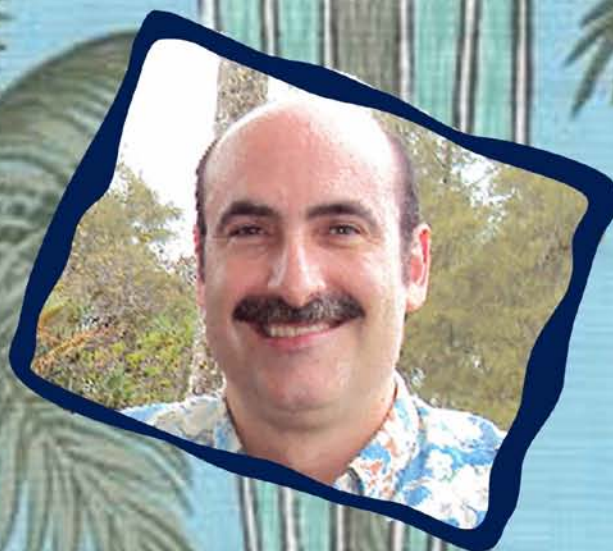
**Common Bonds of Identity
for Hawai'i's People
in the 21st Century**

**Guest Professor: Dr. Ogawa
(University of Hawaii at Manoa)
Place: B31
Date: October 18th, 2010
Time: 15:15~16:45**

October 18th, 2010

**Thoughts on the word order
and syntactic rules of English**

**Guest Professor: Dr. Saft
(University of Hawaii at Hilo)
Place: M1
Date: October 18th, 2010
Time: 15:15~16:45**



Sponsor: Nanzan University, Faculty of Foreign Studies,
Department of British and American Studies
Contact: The Department of British and American Studies GP Office
Tel: (052) 832 - 3111 (Ext. 3503)
Email: info-eibel-gp@nanzan-u.ac.jp
<http://eibel-gp.nanzan-u.ac.jp/index.html>

Lecture 2: Recognizing and appreciating the similarities and differences between English and Japanese discourse

Date and Time: 2010 年 10 月 19 日 11 時 05 分～12 時 35 分

Place: 南山大学名古屋キャンパス P Room (J 棟 1 階)

Lecturer: Dr. Scott Saft (ハワイ大学 ヒロ校 教授)

M.C.s: 有元将剛 (南山大学外国語学部英米学科教授)

鈴木達也 (南山大学外国語学部英米学科長)

Summary:

Dr. Saft discussed stereotypes of Japanese people, connecting it to differences in Japanese and English discourse from different points such as grammatical structure and “aizuchi”. The students were asked to actively participate; often demonstrating various sentence structures making this a truly interactive lecture.

参加学生のコメント

- ・日本人とアメリカ人の違いを「文化」という言葉だけでかたづけられるのではないと知り、とてもおもしろかった。(英米学科 4 年)
- ・ I was surprised that Japanese is made up of so many particles and can be added more and more. We use language every day, but it would be more interesting if I can think about the structure more deeply. Thank you for giving us a wonderful experience. (英米学科 3 年)
- ・ It was very interesting topic. I get to think about it and learnt a lot. I wanted to hear the opinion from you more why the ways of showing support (aizuchi) is different. (人間文化研究科言語学専攻)
- ・ The idea that stereotypes are (at least partly) related to language itself (or its grammar) was very interesting to me. The lecture was exciting! (英米学科 3 年)
- ・ おもしろかったです。文化の違いが、言語にもはっきり表れていると感じました。(英米学科 4 年)
- ・ ハワイ大学の学生が積極的に発言しているのを見て、自分も彼らのように意見を伝えられるようになりたいと思いました。日本ではあいづちを多く使う一方で、アメリカではあまり使わず、表情やジェスチャーを多く使うといったことを知っておくことは、よりよいコミュニケーションをするために知っておくことは大切だと感じました。(英米学科 4 年)
- ・ 普段英語の授業以外、外国のことや外人が日本をどうみているかについては知る機会がなかったので、来てよかったと思いました。(経営学科 2 年)



Dr Saft's lecture



Students enjoying Dr. Saft's lecture



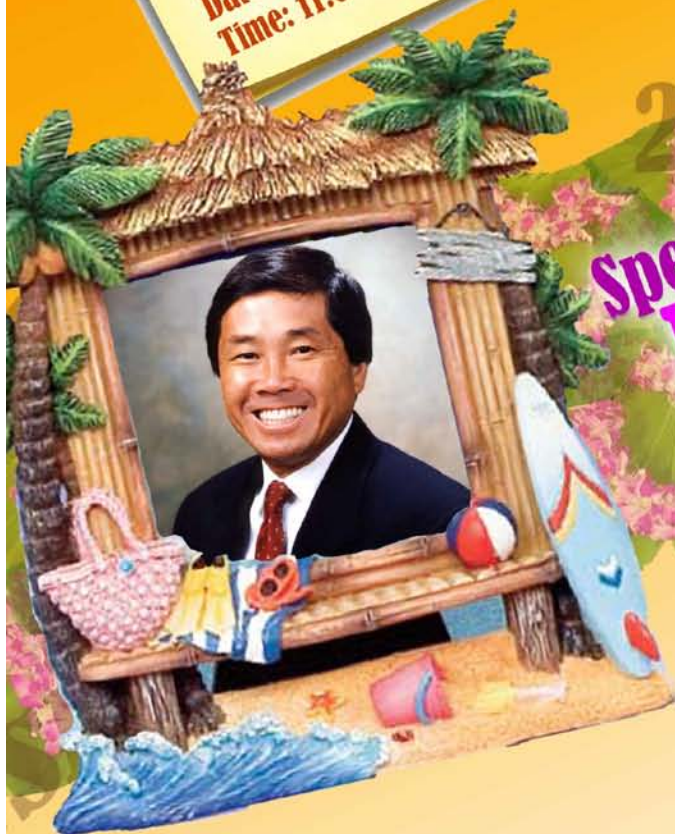
Program for Promoting University Education Reforms
Supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Nanzan University, Faculty of Foreign Studies, Department of British and American Studies
Program for the Improvement of Multi-skills in Education to Enable Students to Participate in the Modern Globalized World
International Workshop (Open to the public Language: English)

**Recognizing and appreciating
the similarities and differences
between English and
Japanese discourse**

**Guest Professor: Dr. Saft
(University of Hawaii at Hilo)
Place: P ROOM Q Building, 1st Floor)
Date: October 19th, 2010
Time: 11:05~12:35**



**Special Guests from
Hawaii**



**America from the Outside:
Discussion Workshop
with Dr. Ogawa**

**Guest Professor: Dr. Ogawa
(University of Hawaii at Manoa)
Place: L 910
Date: October 19th, 2010
Time: 11:05~12:35**

OCTOBER 19th, 2010

Sponsor: Nanzan University, Faculty of Foreign Studies,
Department of British and American Studies
Contact: The Department of British and American Studies GP Office
Tel: (052) 832 - 3111 (Ext. 3503)
Email: info-eibei-gp@nanzan-u.ac.jp
<http://eibei-gp.nanzan-u.ac.jp/index.html>

第9回講演会

GP Thesis Writing Preparation V: Final Q&A Session-All You've Ever Wanted to Know about Thesis Writing

Date and Time: 2010年10月27日(水) 13時30分～15時00分

Place: 南山大学名古屋キャンパス B棟 DB1

Lecturer: Aya Kawakami (外国語学部英米学科 GP 嘱託講師)

M.C.: Aya Kawakami (外国語学部英米学科 GP 嘱託講師)

Summary:

卒業論文の制作についてのワークショップシリーズ最終回。

最終回は、これまでのレクチャーアンケートで多かった質問や要望に答えるセッション。講義では、**Formal writing**、**thesaurus** (分類語彙辞典) の利用や、論文を書き始めるきっかけについて話し合いました。Aya 先生がいくつか文例をあげ、参加学生が、より **Formal** な文章に修正するなど実践的な講義となり、とても有意義な場となりました。



Aya Kawakami's Lecture



Ms. Kawakami going over a student's work

英米学科の皆さんへ

英米 GP 卒業論文の制作の手引き V



日時：10 月 27 日（水）13 時 30 ～ 15 時

場所：南山大学名古屋キャンパス DB1

講師：Aya Kawakami (Writing Advisor)

対象：英米学科生 言語：英語

卒業論文制作の手引きをシリーズ化。

最終回はこれまでのレクチャーアンケートで多かった質問や要望に答えるセッション。

卒業論文の制作に欠かせないポイントをお伝えします。

この機会に、これまで聞きたかったけど聞けなかった疑問を解消してくださいね。

◆Schedule

第 1 回 7 月 14 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Introduction to senior thesis writing “

～ 卒業論文作成の基本 **終了**

第 2 回 9 月 22 日（水）13 時 30 ～ 15 時 **終了**

” Introduction to senior thesis writing (encore)

～ 卒業論文作成の基本（前回の講演の復習 + α）

第 3 回 10 月 6 日（水）13 時 30 ～ 15 時 **終了**

” Plagiarism ～著作権について”

第 4 回 10 月 13 日（水）13 時 30 ～ 15 時 **終了**

” Powerpoint Tips for your Thesis Presentation

～ 卒業論文中間発表に向けてのパワーポイント活用

第 5 回 10 月 27 日（水）13 時 30 ～ 15 時

” Final Q&A Session-

All you've ever wanted to know about thesis writing”

～ これまでの Q&A に答えるセッション

◆Aya Kawakami

GP プロジェクトディレクター兼、
英米学科ライティングアドバイザー
2008 年マツコリー大学の応用言語学
(TESOL) にて M.A. を取得
2009 年から南山大学英米学科にて、
ライティングアドバイザーとして勤務



主催 : 南山大学外国語学部英米学科
問合せ先 : 英米学科 GP 事務局 (L204、205)
担当 : GP プロジェクトリーダー 川上 綾
電話 : 052-832-3111 (内線 3503)
E-mail : info-eibei-gp@nanzan-u.ac.jp

2.3 卒業論文そして卒業論文中間発表

中間発表会の模様の動画と電子ジャーナル化した卒業論文の両方をインターネットを通じて世界へ発信することによって、話し言葉と書き言葉の両面で情報発信を行います。

This year, we will be publishing the abstracts in English of the graduating students of the Department of British and American Studies on our GP website.

卒業論文中間発表

Date and Time: 2010 年 11 月 10 日 (水) 14 : 00-16 : 30

Place: 南山大学名古屋キャンパス B 棟 B41, B43, B44, B45, B46, B47

M.C.: Members of the GP Student Committee

Summary:

2010 年 11 月 10 日に開催された、“卒業論文中間発表会”は GP Program のメインイベントの 1 つです。これまでこのような卒業論文の発表は、ゼミ単位で行われていましたが、2009 年より英米学科行事として行われるようになりました。この発表会は、4 年生の学生や GP の学生が中心となって企画、運営され、全て英語で行われました。各自の発表は 10～15 分で、それぞれの発表後は、その発表を聴いていた学生や教授たちからの質疑応答、フィードバック等ディスカッションの時間となりました。GP の学生たちは、MC やカメラマンとして活躍しました。

参加学生のコメント

- ・写真やイラストが使われていて、分かりやすかったです。とても興味深い内容なので、しっかり conclusion が深まったものをもう一度聞きたいです。(英米学科 3 年)
- ・スライドがとても簡潔で分かりやすかったです。以前スライドの作り方のガイダンスを受けて、“Keep it simple and straight.”がポイントだと学びました。それを守るととても分かりやすいと思いました。(英米学科 1 年)
- ・先輩方の発表を見たことにより、プレゼンの進め方や conclusion のまとめ方、そして単語の使い方を学べたことで次に活かせると思いました。(英米学科 3 年)



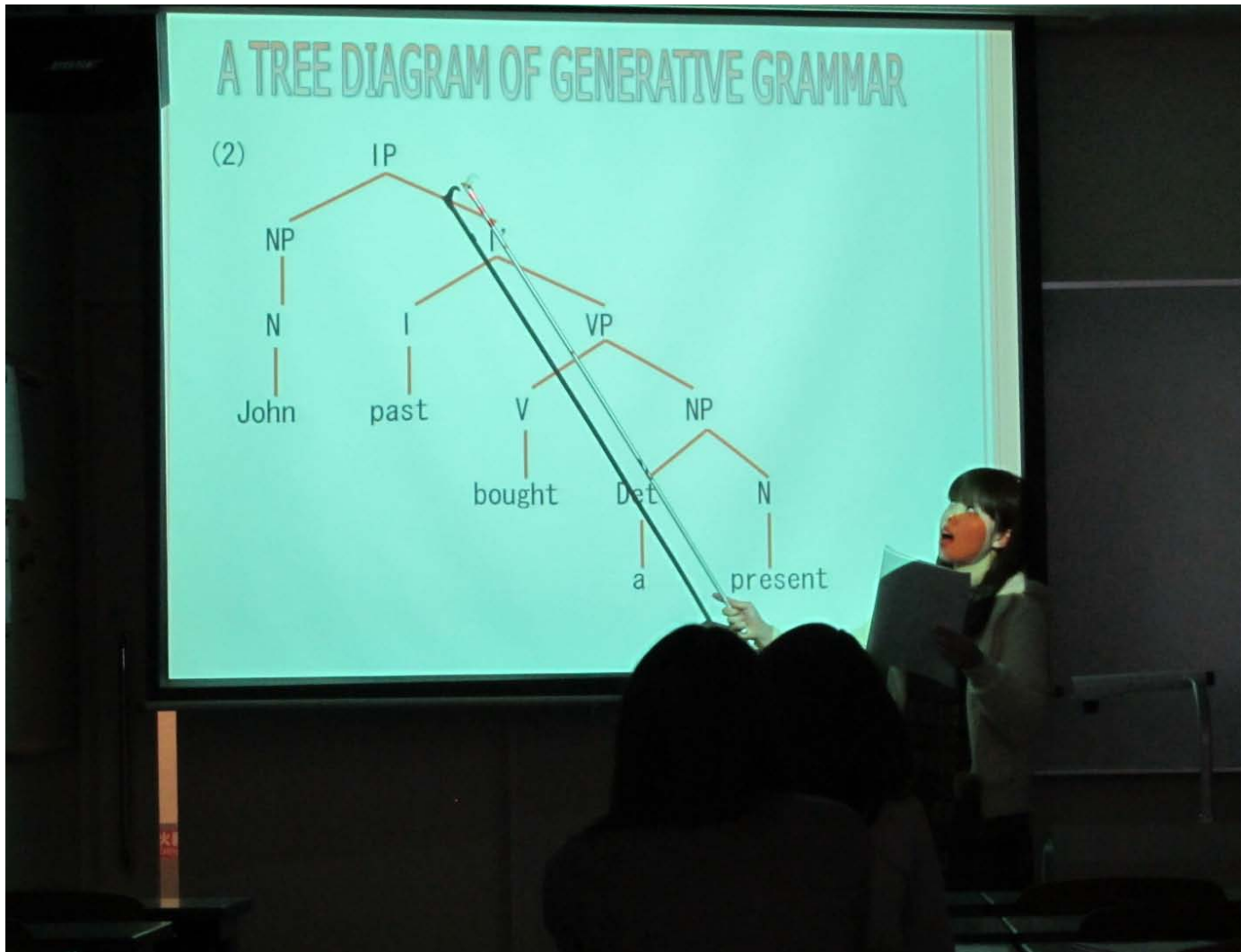
GP Project Director Aya Kawakami and the GP Student Committee members who were MCs for this event having a final meeting prior to the 卒論中間発表



GP Student Committee members who were MCs for this event discussing the procedure in English prior to the event



GP Student Committee Member facilitates the Q&A Session



A senior presenting her graduation thesis

Student Column Article: Presentation about My Graduation Thesis (卒業論文中間発表)

This event definitely helped me work on my thesis harder since I got a lot of motivation and new ideas from the audience and teachers. I understand some seniors hesitate to present their thesis in front of people especially when they hadn't finished them yet, but it is definitely worth taking part in this event. Therefore, I'd like to talk about why I recommend it and what I gained from the event.

First, it was great to receive feedback about my thesis from the audience and teachers. Their opinions and questions broadened my horizons and helped me improve the quality of my thesis. I got pretty nervous when I received some difficult questions, but, after all, those questions told me what to research more, what my point is and what to do next.

Second, it was definitely great practice to speak English in front of many people. To be honest, I felt like I was a "guest speaker" during the whole presentation. I enjoyed it a lot and got confidence through the presentation.

Since all the seniors in my department are required to write a thesis in English, I think it was a great idea to present and exchange ideas all in English from the process of preparation.

Third, it was nice to see how my friends were doing. Their presentations definitely gave me a lot of motivation to keep on writing my thesis when I learned they went further and did better than I or even the opposite, that is, I went further.

It was such a great experience to share my ideas with other people in English not just to improve my thesis but also to gain more confidence in thinking and speaking English in front of people.



A student in the audience asks the senior about their graduation thesis presentation

3 Cross-cultural Interaction:

In addition to interacting with academics and guest speakers from around the world, the students participating in the GP Project have had many opportunities to interact with students from colleges in the United States.

Dickinson College:

In June 2010, students from Dickinson College came to Nanzan University for a month long program. In previous years, students of the Department of British and American Studies had little interaction with these students. This year, however, the GP project and their student committee negotiated with Dickinson College to have the GP students participate in activities with the Dickinson students.

Our students initially gave the Dickinson College students a campus tour, all in English. They then formed groups, "buddy system" type groups, that would take the Dickinson students to various places to experience local Nagoyan culture. The GP students also took the Dickinson students to the Nanzan and Sophia Universities' Sports Festival, Jonansen, and to the Arimatsu and Okehazama Senjo Matsuri festivals. Through introducing their own culture, many students stated that they felt they had gained a deeper understanding of their own culture and through this, a better understanding of other cultures.

In addition to these trips and tours of Nagoya, the GP project arranged discussion sessions of various topics for the GP students and the Dickinson students. They discussed the differences and similarities in student life, campus life, after school and home life, food, TV, essentially all aspects that consume their daily life.

Through Facebook and emails, the students have continued their friendships and continue to interact in English.



GP students giving a campus tour to the Dickinson students



Discussion session in the green area with the Dickinson and GP students



GP and Dickinson students at the Jonansen

Student Column Article: Okehazama-Senjo Festival

This is a re-enactment of a famous battle in Japanese history. There were some people from other countries in the battle procession dressed as samurai and fighters. It was an interesting mix of cultures. Xiyu and I watched the re-enactment together. Although it was all in Japanese (in fact in old-style Japanese which is even difficult for me to understand), Xiyu could see the outline of what was going on. Even though there were some things she misunderstood, it was still amazing. I want to stress that Xiyu has no real knowledge of Japanese. I was so amazed by the fact that human's have the ability to interpret things without knowing the language.



GP and Dickinson students go to the Okehazama Senjo festival

University of Hawaii at Hilo and Manoa:

Students from the University of Hawaii at Hilo and Manoa came for one week. In addition to participating in the Joint Presentation Workshop and Cross-cultural Reflection Workshop, the students of the University of Hawaii joined Eibei classes, acting as teaching assistants, student leaders, and participants. Students who were in these classes all commented on the positive effect that the University of Hawaii students had. They often said that the Hawaii students' ability to continue the conversation, encourage with questions, as well as their ability to formulate their arguments, was very impressive.

The GP students again acted as guides, giving the Hawaii students a campus tour, taking them to various places in Nagoya to learn about the local culture. Furthermore, some students invited Hawaii students into their homes for a home stay. Despite the short time, the University of Hawaii students and GP students bonded and have continued their friendships. In fact, two of our students in GP recently went to Hawaii and met with some of the University of Hawaii students in Hawaii!

Student Column Articles: Home Stay Experience with University of Hawai'i Student

I had a chance to have one of the Hawaii student stay with my family after the farewell party. When I showed her into a Japanese-style room, she was very excited at the tatami floor. I was a little surprised because it was quite common for me. She was also interested in the tokonoma and shoji. For her, this was the second time she had ever slept on a futon but she was very pleased about it. We played a video game together at midnight. She was a very good sword fight player! She and my family had a very good time. When we talked about our family, I found an interesting cultural difference between us. In her country, for example, 'grandmother' means not just one person. The word includes grandmother's brothers or sisters, too. In contrast, grandmother means only my father or mother's mother in Japan. I would like to learn more difference through future GP activities. In spite of her short stay, my family had such a wonderful time with her, and I will never forget that day.



GP student with her Hawaii home stay student

Student Column Articles: Hanging out with UH students

The Hawaii week was great time for me. Before they came to Nagoya, I felt anxious about whether I would be able to have a good relationship with UH students, especially with the students who were in my group for the joint presentations. However, all of them were so nice and funny, therefore we had a lot of fun together and finally we missed each other when they went back to Hawaii. There are a lot of memories about Hawaii week but especially going to Karaoke and a 100 yen shop were the top two memories that stay with me. Karaoke with them was awesome. We sang American songs and we enjoyed singing them so much. There were some songs I don't know but the atmosphere was very enjoyable. Beginning of the Karaoke, a few people sang a song with the microphone, but after our feeling was better, all of us started to sing songs together and finally started dancing. It was just for fun, but I think we could open our own minds to each other. Actually before going to Karaoke, we had a little chance to talk another group's UH students and even with our group students we talked a lot about our presentation so I was so happy to talk a lot with them. 100 yen shops attracted the UH students. There were lots of Japanese stuff there for cheap and things they can get only in Japan. One thing I was surprised that one of UH students bought many Haichu. She said there were some Haichu in Hawaii but there were not so many kinds of flavors. I had never thought about Japanese Haichu so this was a new aspect of Japan. Hawaii week flew by so fast for me and I miss them but I'm happy to have a great experience and a great time with them. I want to develop my English skills more than now and see them again. This is one of my dreams!



Students working on their project together during a tour of Sakae



GP Students giving a campus tour to the University of Hawaii Students



Hawaii students participating in a discussion session in a class



GP students taking the Hawaii students on a tour of Ise Shrine

Student Column Article: Hawaii Trip

I went to Hawaii as a graduation trip in the first week of February, 2011. I stayed in Waikiki for a week with my friend, Yumi, who is also a member of GP. The reason why we went to Hawaii was that we love Hawaii and wanted to see our friends who we met in Nanzan through GP last year. Although they stayed in Nanzan only for 10 days, luckily enough, we became pretty close friends by the time they had to go back to Hawaii.

When I landed in Honolulu, I was very surprised and happy that it was pretty warm enough to wear a T-shirt. I had to put all the jackets back into my backpack. Before we saw our friends in Hawaii again, we enjoyed shopping, lying on the beach, swimming in the sea and walking around Waikiki. We also tried local restaurants and bars and had a great time. The funny thing was that we went to a sports bar without knowing that there was a big event, the Super Bowl, one of the biggest football competitions in America, going on that day.

On the 2nd day, we finally met up with our friends from University of Hawaii. We had dinner together and enjoyed our time together a lot. I felt like I had known them for more than a year although it was just 4 months since I first

met them. After the dinner, they took us to their college and showed us around. On a different day, we went shopping together and even tried surfing. Surfing was much more difficult than I had thought, but it was definitely something that really made me feel “Hawaiian” and I really appreciate my friends in Hawaii who gave me this wonderful opportunity.

Through this trip, I learned how important it is to continue friendship. It’s always wonderful to have friends and keep in touch, not just to have fun together, but also to help each other, get motivation to explore the world, and grow up together.

Not to mention, speaking English made the trip much more exciting and fun. If I couldn’t speak English at all, I wouldn’t have been able to become friends with them in the first place. Therefore, I’m going to keep on learning English for a better life ☺



4 The Student Committee:

The Student Committee consists of the Events and Media sub-groups. All members participate in general meetings where they exchange information and also put forth ideas for events, reflect on past events, discuss the website, and develop bonds amongst the members. General meetings are held regularly twice a month, with additional meetings scheduled when needed. The Events group is in charge of organizing and implementing events. They also approve proposals of events from the GP student committee. The Media group creates posters and advertisement for the events, create pamphlets to promote our program, record events with photos and videos, and maintain the website's student column. The students report of events that the GP project has done. Both the Events and Media group meet once a week or more if necessary. The GP Student Committee has two leaders and each sub-group has a leader and sub-leader which are chosen at the beginning of each academic year.



A meeting to discuss the Ask Asuka Workshop and create the script



GP Student Committee members discussing their ideas about the script



GP Student Committee general meeting



GP Student Committee members learning about how to use Photoshop software



A GP Student Committee member taking pictures for our pamphlet

5 Chatterbox:

As part of the student column, the students have created articles called “Chatterbox” articles. These are more informal articles where the students talk about various aspects of their lives. Here are some samples below:

A Little Early Christmas

On the last weekend of November, a play called “A Christmas Carol with a Heart” was performed at Nanzan kodo. The story is basically a Texas version of the famous Charles Dickens' novel. I volunteered to help out and had been in contact with the director who teaches at Nanzan University. We had a final rehearsal on Friday night, which was when I saw the whole play from beginning to end for the first time. I was amazed at how much passion the actors put into their roles, and also enjoyed listening to Texas Christmas songs I had never heard before. The play was performed three times during the weekend, and I mainly handled the tickets and ushered people to their seats. Two things I kept in mind at all times were to keep smiling and use a big, clear, and cheerful voice. It made me proud of myself when one of the volunteers told me I was suited for this kind of job. The play itself was fantastic, too. I had been seeing the hard work of the cast and crew and how things were sometimes going rough, so it almost made me cry when the curtain went down on the last show. The heartwarming Christmas spirit really touched my soul, and I feel very fortunate to have been able to work with such wonderful people.



My Summer Vacation

This summer vacation was my very first summer vacation in university. I had a lot more free time than the vacations in previous schools. The main reason is that I did not have any homework. So I got to do a lot of fun things. The most impressive things were that I went to see my grandmother in Hokkaido, went to the “Morikoro Park” in Nagakute city with the members of my club activity, and to Disneyland with my friends.

First, I went to Hokkaido where my grandmother lives. I stayed there for four days. Annually, I go there with my family, but this time I went there by myself. At first, I was a little nervous because as I stated, I have never been there on my own before. Nevertheless, when I arrived there, I felt relieved and satisfied. First of all, I took a plane to the city called Chitose. Next, I took a train from there to the city where my grandmother's house lives. From the station, I took a taxi. As soon as she noticed that I had arrived at her house, she came out to see me. We were so happy to see each other. During my stay there, I helped her a lot. The main thing that I did was go to the grocery shop for her. She told me that she can barely go to the grocery store since her knees hurt and it is far away from her house. For that reason, her refrigerator was as good as empty. In fact, she did not even have a bottle of water. So I decided to go there for her. I bought many things and as a result, her refrigerator was filled with food and drinks. She felt so happy and thanked me a lot. On the second day, we went to a hot spring which is close to my grandmother's house. It takes less than 30 minutes by foot. However, it is impossible for my grandmother to walk at my pace, so it took us nearly 45 minutes to go there. I felt so comfortable because I had not been to a hot spring for such a long time. I talked with my grandmother about many things. She looked so content when I told her that I am studying hard and have made good friends in school. After we took a bath, we had dinner at a restaurant which was near the hot spring. Since it was after a bath, the meal was so delicious. When we got home, I went to bed straight away. On the morning of the day that I returned home, she told me that she would be lonely again from that day. I reminded her that I would go next year as well to see her. I went to my grandmother's house by my own efforts for the first time and had a great time there.

Next, I went to the park called “Morikoro Park” which is located in the city called Nagakute with the members of my club. The club that I participate in is a group that teaches English to children, so we went with some of the children that we teach. During the morning, we divided into groups of pre-school, first year students, fourth year elementary school students and walked around the park. I was in charge of the pre-school group. Each group had some quiz which they were assigned to answer. For example, “There are some statues of girls within this park. Can you find them? ” Our group had to find the statue of an elephant, an old man, and a picture of something. I forgot what picture it was. We were able to find all the things which we were asked to find. After lunch, we went to the children's hall in the park and stayed there until the time of our departure. We did not have enough energy to play, seeing that we were exhausted. In spite of that, the children were so powerful that they were in high spirits. We were so content to see them play so happily due to the fact that they got to have so much fun. I thought they were cute and in addition, it reminded me of my childhood. At the time we left the park, the children looked so tired that some of them even slept on the train. Even so, they were more fulfilled than what I imagined. Moreover, I was so fatigued that I went straight to bed when I reached my destination. We had so much fun and it was a satisfactory day.

The last big thing I did this summer was that I went to Disneyland with my friends. I was so excited but a little nervous since this was the first time that I went with friends. We went on many kinds of attractions and bought

many cute things. The most entertaining things were “Mickey Mouse's House” and “It's a Small World”. I thought Mickey Mouse's House was very cute. The things that he owned were so charming, such as his clothes, his pet Pluto's house, and the pictures of him and his friends such as Minnie Mouse. It seemed like he was setting great value on these things. We did not only see inside Mickey Mouse's House but also we had an opportunity to take pictures with him. He was very happy to see us that he welcomed us warmly. He was exceedingly adorable. We were happy to see him as well in view of the fact that we did not have much time to meet the characters because it was crowded. I found the ride “It's a Small Word” so intriguing and endearing. Many children from many different countries were singing and dancing so cheerfully. I got absorbed in that atmosphere. It seemed like they were advocating something important to us- we live in the same planet, each country should respect each other, and that racial discrimination and segregation are intolerable. In the past, people who were discriminated against were not even treated as human beings. Some people were treated worse than animals. For example, during World War 2, in Germany, many people subjected Jewish people to insult just because of their religious views. They deprived them of living normal lives. Moreover, until that late 1960's, African American people were segregated from white people which means that they could not do the same things as white people. Even in the present age, there are countries that dislike each other and humiliate people of each other's countries. The ride is telling us that even if some people look different from other people, they are the same as us, human beings. I also liked their clothes. They were so lovely. We looked at some gift shops. Everything was so highly lovable that I wanted to buy all the things in the store. There were numerous things that are impossible to find in other stores. I bought many of these things though they were rather expensive. I purchased so much that it got too heavy for me to carry them to the bus. This being the case, I felt so fulfilled that I was able to go on many enjoyable attractions and had an opportunity to buy things that I can only find in Disneyland.

In summary, this summer was the most pleasurable summer that I have ever experienced. In view of the fact that I got to go to Hokkaido on my own to see my grandmother, went to “Morikoro Park” with the children and went to Disneyland with my friends. Hopefully, the summer next year will be as wonderful.



6 語学試験（TOEIC® テスト）

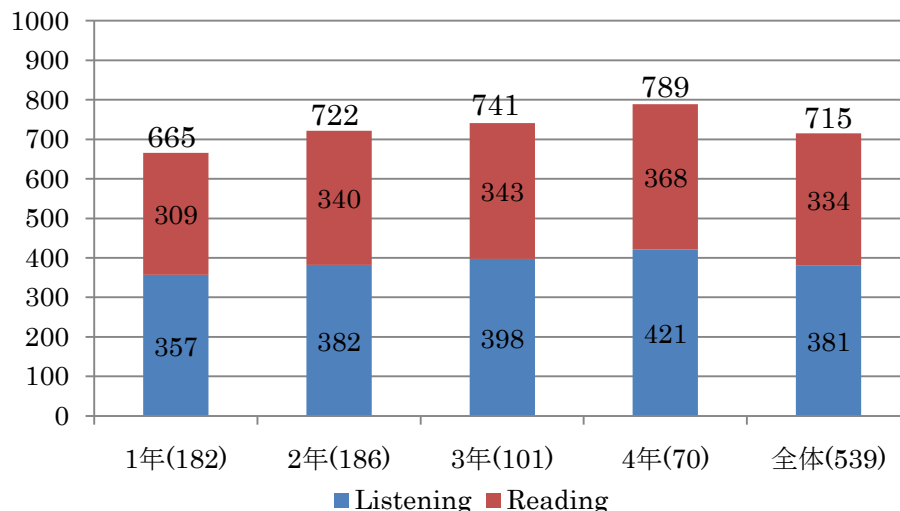
南山大学外国語学部英米学科の「多文化社会における英語による発信力育成—グローバル時代に活躍するための多元的学士力向上プログラム—」（平成 21 年度文部科学省大学教育・学生支援推進事業【テーマ A】大学教育推進プログラム採択）において、学生の英語力を客観的なスコアで把握することは非常に重要です。本取組では、(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会が実施している「TOEIC®テスト（国際コミュニケーション英語能力テスト）IP テスト」を利用しています。本取組は一部の学生を対象としたものではなく、英米学科の全学生を対象とした取組です。2009 年 12 月に基準データを収集するために第 1 回目のテストを実施しました。2010 年度には、4 月に新入生を対象に、12 月には全学生（800 名）を対象に、2 回の TOEIC IP テストを実施しました。2011 年度も同時期にそれぞれ新入生、全学年を対象にした TOEIC IP テストを実施します。本取組は、学習成果がスコアで確認できるので、学生の英語学習に対するモチベーションアップにもつながっています。

今後も本取組で同じテストを継続して実施することにより、英語能力の伸びを把握し分析します。

6-1 2010 年 12 月実施 学年別平均点(539 名)

2010 年 12 月に実施した TOEIC IP TEST の学年別平均点を表したのが、次のグラフです。

() 内は受験者数を示しており、今回のテストの全体の受験者数は 539 名でした。

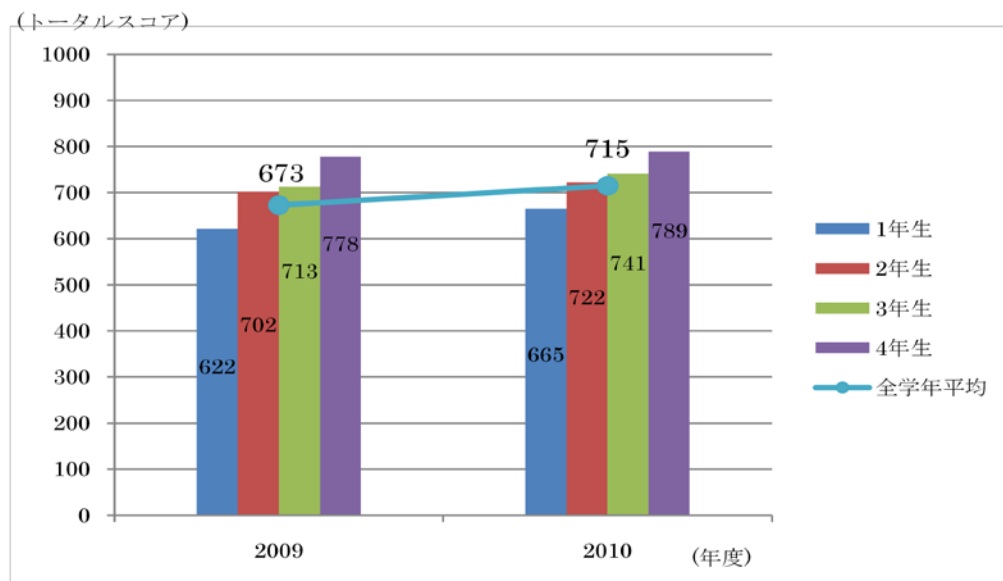


各自の TOEIC スコアがどの程度の Proficiency かの目安として、(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会が作成した「コミュニケーション能力と TOEIC スコアの相関表」と学年別平均点を照らし合わせてみると、1 年生、2 年生のそれぞれの平均点では「日常のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる」レベル C (TOEIC スコア 470 点～729 点) にあたり、3 年生、4 年生のそれぞれの平均点では「どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えている」レベル B (TOEIC スコア 730 点～859 点) にあたります。

6-2 スコア推移

6-2-1 全体のスコア推移

2009 年度と 2010 年度の学年別平均スコアとその年度推移を表したのが、次のグラフです。

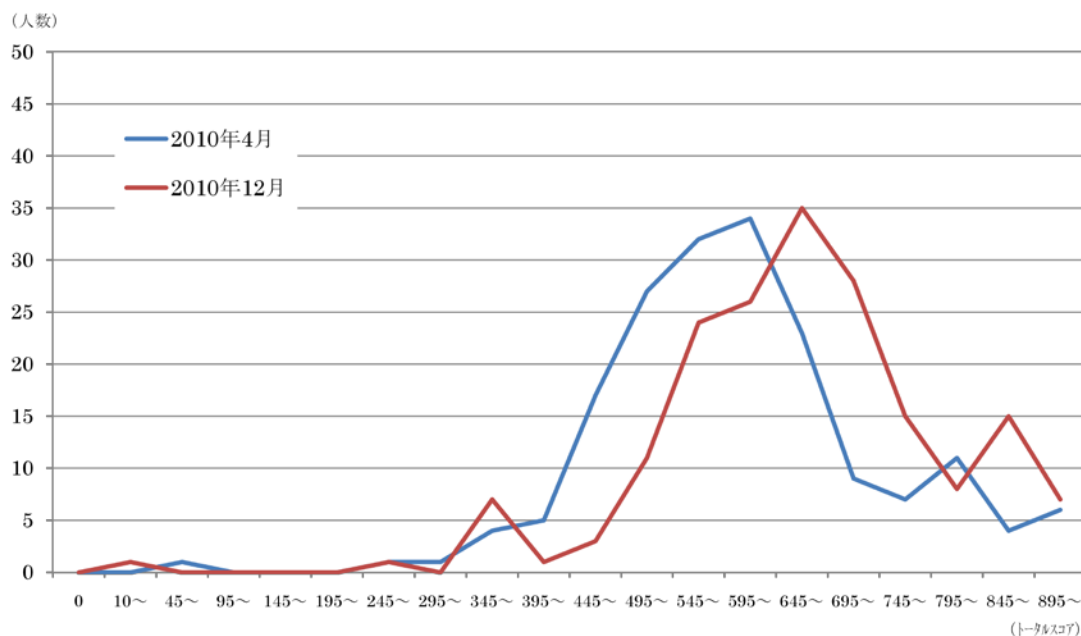


2010 年 12 月に実施したテストでは、2009 年 12 月実施したテストより、英米学科全体の平均点が 673 点→715 点と、42 点伸びています。

6-2-2 1年生のスコア推移(2010年4月と2010年12月を比較: 182名)

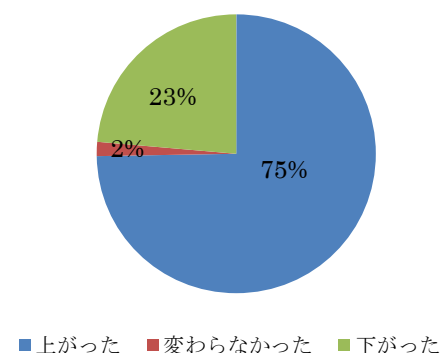
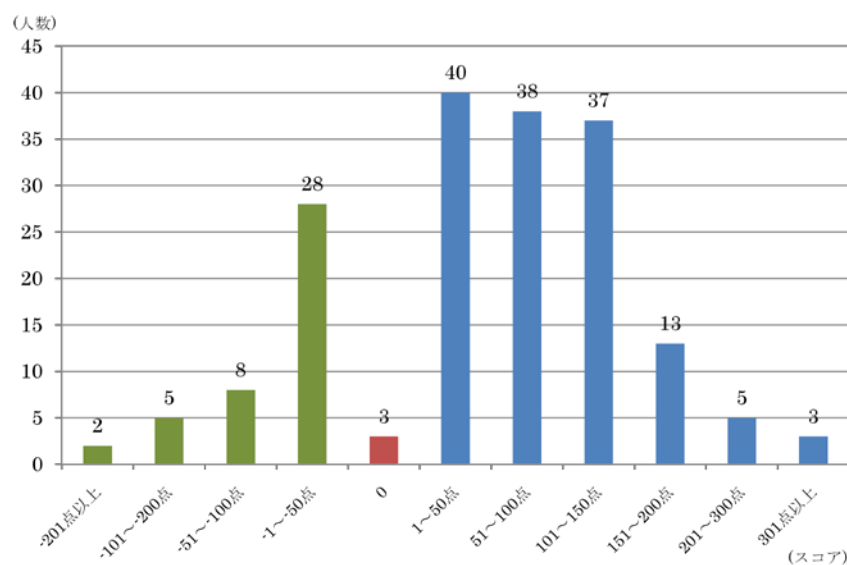
1年生の本年度入学直後に実施したテストスコアと、8ヵ月後の12月に実施したテストスコアの推移を表したのが、次のグラフです。

◆スコア分布



2010年4月に比べて2010年12月では、スコア分布の山が高スコアに移っているの、英語能力が着実に高くなってきていることがわかります。

◆スコア伸長



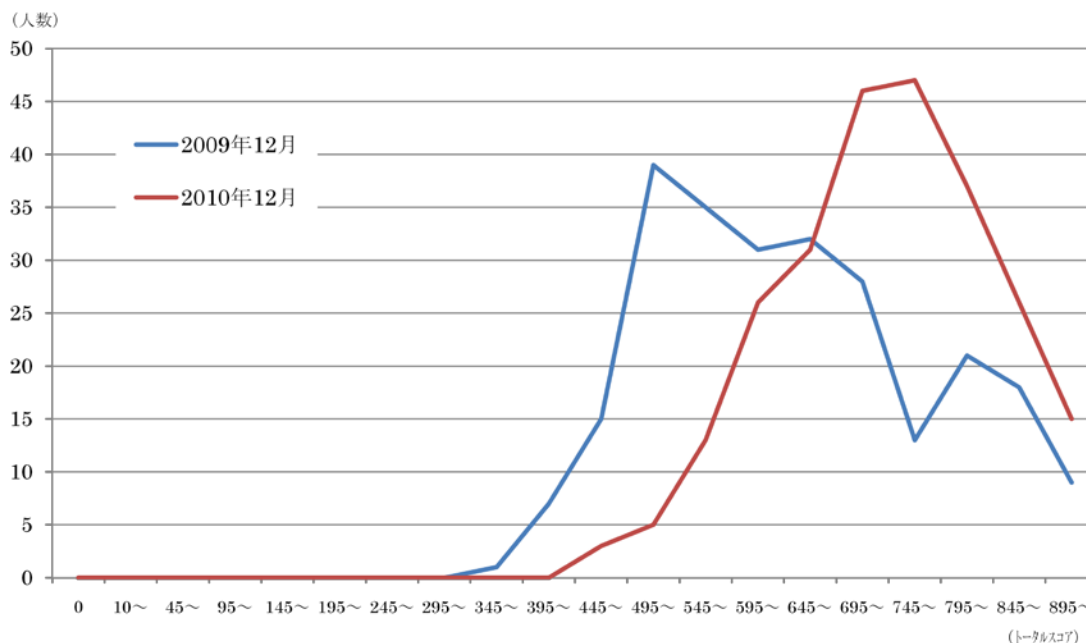
1~150点スコアを伸ばした層が多く、最高スコアアップ幅は310点です(550点→860点)。

2010年4月、2010年12月実施のテストを両方受験した1年生のうち、75%の学生がスコアアップしています。

6-2-3 2年生～4年生(2009年12月と2010年12月を比較: 249名)

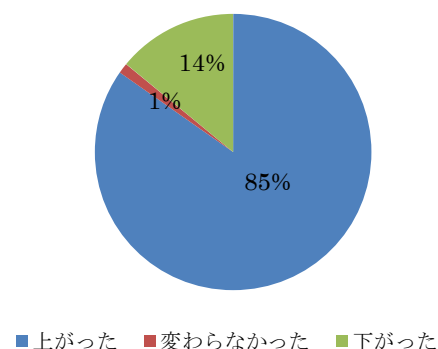
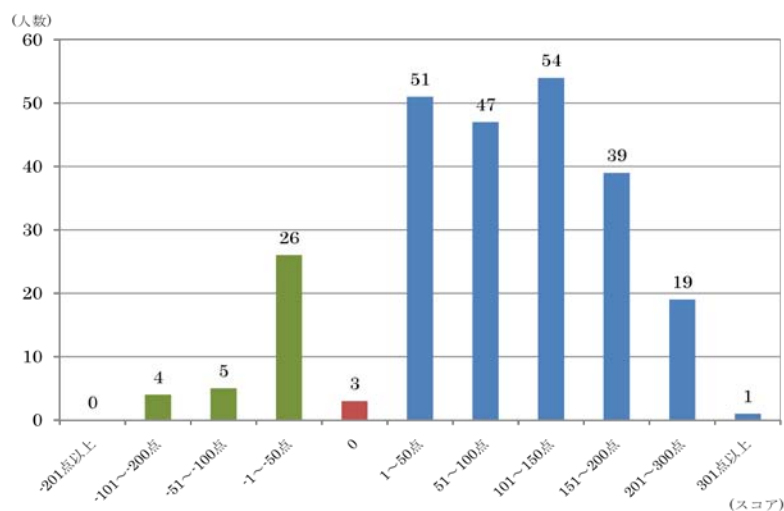
2年生から4年生の2009年度12月に実施したテストスコアと、1年後の2010年12月に実施したテストスコアの推移を表したのが、次のグラフです。

◆スコア分布



2009年12月に比べて2010年12月では、スコア分布の山が高スコアに移っているため、英語能力が着実に高くなってきていることがわかります。

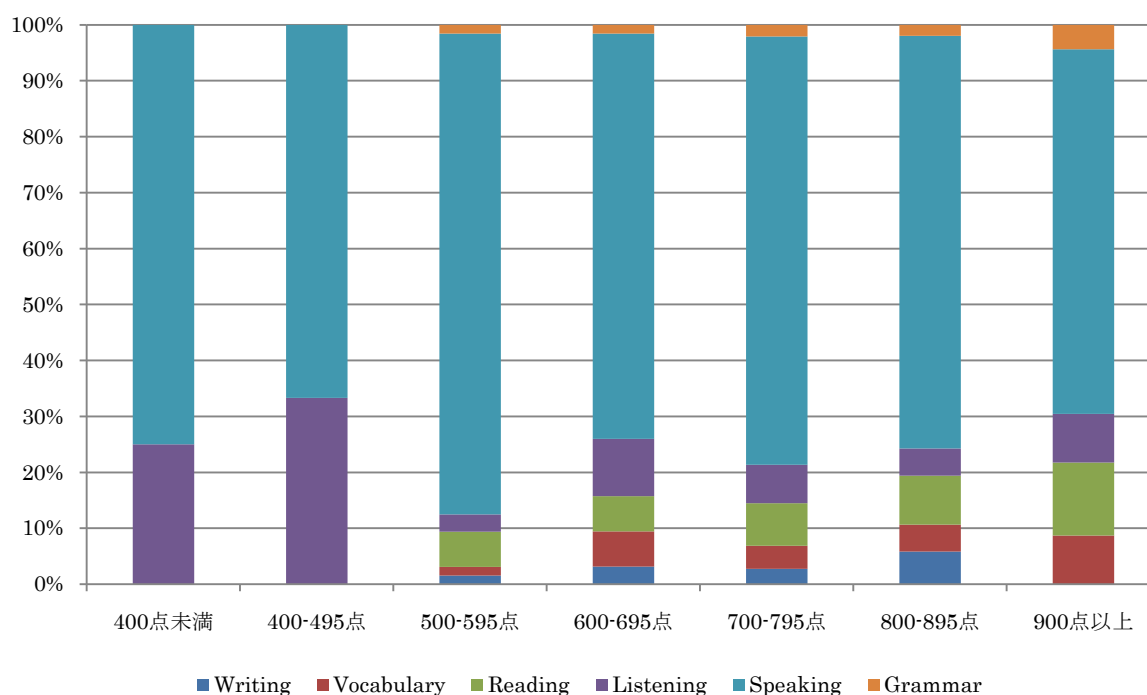
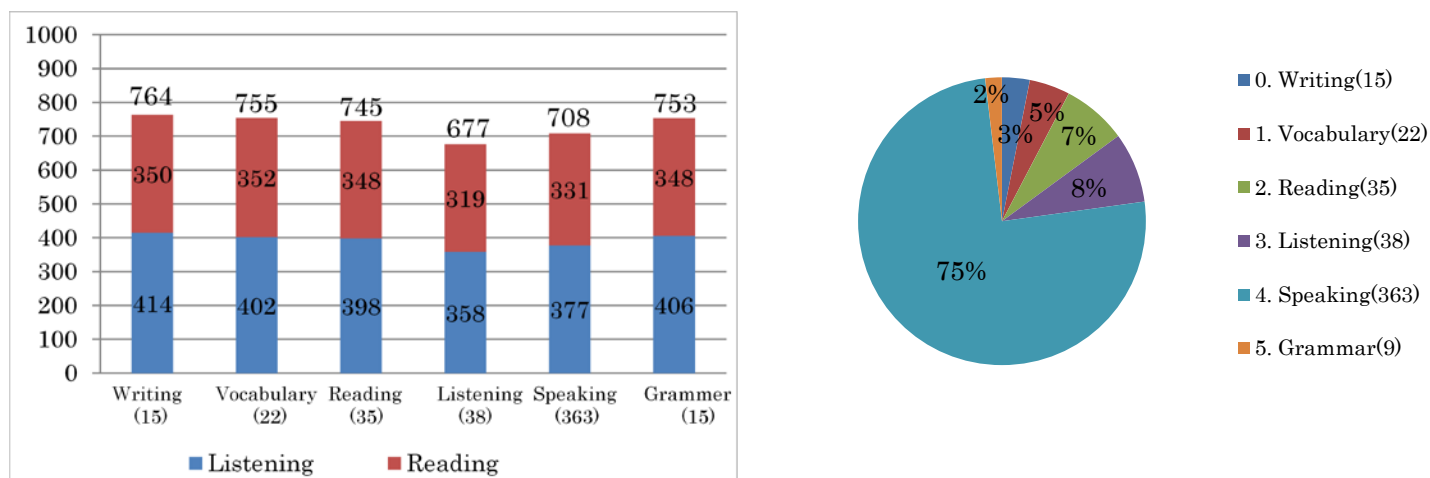
◆スコア伸長



101～150点スコアを伸ばした層が最も多く、最高スコアアップ幅は315点です(395点→710点)。2009年12月、2010年12月実施のテストを両方受験した2年生から4年生のうち、85%の学生がスコアアップしています。

6-3 英語教育で特に力を入れたい分野

学生が英語教育で特に力を入れたいと考えている分野とそれぞれの分野を選んだ学生の平均得点を表したのが次のグラフです。



Speaking 分野に力を入れたいと思っている学生の数が他の分野に比べて圧倒的に多く、全体の **75%**を占めています。

トータルスコアが **500** 点未満では、**Listening** と **Speaking** に力を入れたいと思っている学生がほとんどですが、トータルスコアが **500** 点以上になると、**Vocabulary**、**Reading**、**Grammar** にも力を入れたいと思っている学生がいます。

